

補增正改月三年一

治明

禁電子式複写

大淵涉編輯

現行  
法令規則大全

駸  
堂  
發行

特刊  
7

大淵涉編輯

現行法令規則大全

駿上堂發行

CZ  
5  
0149

# 現行法令規則大全目次

## ●地租ノ部

- 地租條例
- 地租條例施行細則
- 地租條例附屬法
- 地租條例及地租條例施行細則取扱方
- 買上地拂下地賣地等收稅除稅區分方
- 島廳郡役所ニ關スル地租事務取扱手續
- 地租金ノ内田方代米納廢止
- 田畑地價特別修正
- 荒地等ノ段別年期増減取調差出方
- 地租徵收期限改正

全 一〇 全 全 九 八 全 七 五 二

●震災地方租稅特別處分法

全

(三重、愛知、滋賀、岐阜、福井五縣ニ限ルモノ)

●震災地方租稅特別處分法

一三

(秋田、巖手ニ限ルモノ)

●水害地方地租特別處分法

一五

## ●所得稅ノ部

●所得稅法

一六

●所得稅法施行細則

二〇

●市制町村制施行地ノ所得稅

二六

●市制施行地ニ於ケル所得稅其他諸稅等ニ關シ心得方

全

●所得稅納稅届出ノ書面誤訂正申立取扱方

二七

## ●登録稅ノ部

●登録稅法

二八

## ●營業稅ノ部

目一

●營業税法

●營業税法施行細則

●營業税法ニ關スル業名及課税標準届書差出方

●酒造ノ部

●酒造税法

●混成酒税法

●自家用酒税法

●酒造税法施行規則

●混成酒税法施行規則

●自家用酒税法施行規則

●醬麴ノ部

●醬麴營業規則

●醬油釀造部

●醬油稅則

●醬油稅則施行細則

●煙草ノ部

●煙草稅則

●煙草稅則施行細則

●煙草稅則取扱方要領

●煙草稅則第三條ノ證約狀調製手續

●證約狀調製手續

●煙草印紙交換手續

●煙草耕作人届出及取纏方

●葉煙草專賣法

●葉煙草專賣資金會計法

●煙草製造營業者煙草稅現金收納ニ關スル法律

●葉煙草再鑑定規程

●法律第四十號施行ニ關スル規程

●葉煙草仲買人及葉煙草耕作者葉煙草納付規程

●葉煙草專賣法施行細則

●葉煙草收納賣渡及保管ニ關スル取扱方

●葉煙草保管證亡失及賣渡代金延納ニ關スル件

●國稅ノ部

●國稅徵收法

●國稅徵收法施行規則

●國稅徵收法施行細則

●市町村ニ於テ徵收スル國稅ニ關スル件

●賣藥ノ部

●賣藥規則

●賣藥印紙稅規則

●藥品ノ部

●藥品ノ封緘及検査所ノ名稱ニ關スル取締

●阿片法

三五

四五

五一

五三

五九

六〇

六三

七〇

七一

七三

七五

七九

八二

八七

九三

九四

九五

九六

九七

一〇〇

一〇一

一〇二

一〇三

一〇四

一〇五

一一〇

一一七

一二〇

一二一

一二八

一三二

一三三

一三六

一三九

全

●阿片法施行細則

●傳染病豫防ノ部

●傳染病豫防法

●傳染病豫防法施行規則

●傳染病豫防法第六條ニ依リ清潔施設消毒方法ノ件

●汽車檢疫規則

●船舶檢疫規則

●牛疫檢疫規則

●取引所ノ部

●取引所法

●取引所稅法

●質屋取締ノ部

●質屋取締法

●質屋取締法細則

一四一

一四四

一五二

一五七

一六三

一六五

一六八

一六九

一七四

一七六

一八〇

●古物商取締ノ部

- 古物商取締法 一八二
- 古物取締法細則 一八五

●社寺ノ部

- 古社寺保存法 一八八
- 古社寺保存法施行細則 一九二

●出版版權等ノ部

- 出版條例 一九五
- 版權法 二〇一
- 出版及版權ニ關スル願届手續等 二〇七
- 版權登録證書訂正ノ件 二二四
- 脚本樂譜條例 二二五
- 寫真版權條例 二二六

●新聞紙ノ部

- 新聞紙條例 二二八
- 狩獵ノ部
- 狩獵法 二二五
- 狩獵法施行細則 二二九
- 狩獵免許稅徵收ニ關スル法律 二三二
- 鑛業ノ部
- 鑛業條例 二三三
- 鑛業條例施行細則 二六一
- 鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手續ノ件 二八七
- 砂鑛採取法 二八九
- 砂鑛採取法施行細則 二九二
- 鑛業警察規則 九六二
- 砂鑛採取出願手續 三〇〇
- 鑛業條例實施前提出ノ出願書同條例實施後調査上甲方 全
- 上申書回送方 全

●官有地試掘若クハ採掘スルノ手續

- 官有地試掘若クハ採掘スルノ手續 全
- 共同鑛業出願及共同鑛業總代規則 三〇一

●蠶種ノ部

- 蠶種検査法 三〇二
- 蠶種検査法施行細則 三〇五
- 蠶種検査ノ手数料ニ關スル件 三一〇

●種牡馬ノ部

- 種牡馬検査法 三一一
- 種牡馬検査法施行規則 三二三

●銀行ノ部

- 銀行條例 三二六
- 銀行條例施行細則 三二七
- 營業滿期國立銀行處分法 三三四

●貨幣ノ部

- 營業滿期國立銀行處分法細則 三三五
- 貯蓄銀行條例 三二七
- 貯蓄銀行條例施行細則 三二八
- 日本勸業銀行法 三三〇
- 農工銀行法 三四〇
- 農工銀行補助法 三四八
- 銀行合併法 三五〇
- 銀行合併施行細則 三五四
- 國立銀行紙幣通用引換期限ニ關スル法律 全

●貨幣法

- 貨幣法 三五五
- 貨幣形式ヲ定ムル件 三五九
- 一圓銀貨通用禁止ノ件 三六一

●倉庫ノ部

- 倉庫法 三六一
- 保稅倉庫法 五

●保稅倉庫法施行細則

三六七

●登記ノ部

●登記法

三七六

●商業及船舶ニ關スル手数料

三八四

●登記法取扱規則

三八六

●登記印紙規則

三九七

●登記印紙ノ種類定價

三九八

●登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムル件

三九九

●登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目

三九九

●手数料納付並ニ貼付方

四〇一

●同上貼付方

全

●同上種目

全

●賣藥營業免許鑑札料

全

●登記印紙貼付方

全

●證券印紙ノ部

●證券印稅規則

四〇二

六

●印紙類賣下賣捌規則

四〇九

●印紙類賣下賣捌規則施行細則

四一一

●專賣特許意匠ノ部

●特許條例

四一四

●特許條例施行細則

四二〇

●特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並ニ書類謄本圖面調

四四二

●農商務省局ニテ登録セル特許意匠又商標登錄方

四四三

●意匠條例

四四四

●意匠條例施行細則

四四七

●商標條例

四六四

●商標條例施行細則

四六七

●森林ノ部

●森林法

四八八

●森林法施行細則

四九六

●官有森林原野ヲ民有ニ引良ヲ請フ手續

四九八

●輸出入品ノ部

●重要輸出品業組合法

四九九

●生絲直輸出獎勵法

五〇三

●協定稅率ノ便益ヲ受ケムトスル輸入物品ノ製産原地證明ニ關スル件

五〇四

●關稅ノ部

●關稅定率法

五〇五

●造船及船舶、航海ノ部

●造船獎勵法

五〇八

●造船獎勵法施行細則

五〇九

●航海獎勵法

五一三

●航海獎勵法施行細則

五一六

●漁業ノ部

●遠洋漁業獎勵法

六九九

●遠洋漁業獎勵法施行細則

七〇二

七

●船舶檢査法

五二五

●船舶職員法

五二七

●船舶檢査法施行細則

五三五

●船舶檢査規程

五五七

●船舶檢査執行地

五八三

●登簿船免狀取扱規則

五八四

●造船規定

五八八

●船鑑札規則

六九〇

●船舶證明書ヲ以テ代用試驗出願期限

六九三

●船鑑札規則施行手續

六九四

●船鑑札規則ニ準據スヘキ船舶報告方

六九七

●海難其他ノ事實届出ノ件

六九八

● 遠洋漁業獎勵法依リ獎勵金ヲ受クベキ漁獲ノ種類及場所並船舶乗組定員件 七〇七

● 遠洋漁業船舶裝規程 七〇九

● 鐵道ノ部

● 鐵道零則 七二二

● 鐵道犯罪罰例 七二七

● 鐵道零則及鐵道犯罪罰例私設鐵道適用ス 全

● 郵便ノ部

● 郵便條例 七一九

● 郵便條例附屬法 七四四

● 官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ附スルトキ取扱方 全

● 郵便電信局郵便局電信局郵便又ハ電報受付時限 全

● 郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ノトキ取調方 全

● 郵便物表書記載方ノ注意 全

● 郵便物ヲ積載セル船舶難破等ニ罹リ航送シ能ハサル場合ニ於テ戶長浦役人處分法 七四五

● 第四種郵便物トシテ差出ヘキ營業品見本及離形ノ帶紙包紙ニ記載方 七四五

● 第三種認可ヲ經タル定時印刷物ノ號外課稅方 全

● 定時刊行物休廢刊又ハ改題届出方 七四六

● 定時刊行印刷物第三種郵便取扱ノ認可出願方 全

● 第三種郵便物遞送認可願書 全

● 第三種郵便物認可規則 全

● 郵便爲替細則 七四八

● 郵便小爲替規定 七五五

● 配達證明郵便規則 七五七

● 小包郵便法 七六一

● 小包郵便法施行細則 七六三

● 小包郵便物ノ郵便料保險料賠償金額容積重量及價額登記制限 六九九

● 代金引換小包郵便規則 七七八

● 電信ノ部

● 電信條例 七八一

● 電信取扱規則 七九〇

● 電信規則附屬法 八〇六

● 電信條例中心得方 全

● 電信條例中電信局長等收稱心得 全

● 電信渡規則 八〇七

● 電報差出方ヲ配達人ニ依トスルノ規程 八〇八

● 電信料及手数料ハ郵便切手ヲ以テ納メシム 八〇九

● 電信爲替料改正 八一〇

● 歐文電報零號常用料金額及其納付手續 八一〇

● 朝鮮國ニ發着電報料並海外電報ノ國內傳送料 八一

● 朝鮮國京城ヨリ釜山ヲ經テ歐羅巴及其以西各國ニ發着スル電報釜山長崎間經行料金 八一三

● 長崎烏拉日爾斯德間海底電信線ヲ經由シテ本邦露國西刺利亞電報料 全

● 萬國電信條約書ニ依リ發送スル電報ニ郵便切手ヲ用ユル件 全

● 鐵道風電信取扱手数料規程 八一四

● 電話ノ部

● 電話交換規則 八一五

● 電氣事業ノ部

● 電氣事業取締方法及許可ノ件 八二三

●電氣事業取締規則

八二三

●集會及政社ノ部

●集會及政法社

八四七

現行法令規則大全目次終

現行法令規則大全

大淵涉編纂

●地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 地租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、盤田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地、

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成、等ノ如キ天災ニ

罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及

公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ步ト爲シ三拾步ヲ畝ト爲

シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合

ト爲シ合ノ拾分ノ壹ヲ勾ト爲ス



第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之

ヲ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定

ム

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收

ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十二條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ

現況ニ依リ之ヲ定ム

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又

シ

ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用悪水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地及

公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場

合ハ此限ニ在ラス

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出可シ前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨ

リ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

第十七條 十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出免租下年期ノ許可ヲ

受クヘシ免租下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十八條 官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以

内ノ免租下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十九條 官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

第二十條 耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要

スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ

二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス

第十九條 免租下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアル

三

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割

以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原

地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年

期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成、ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二

十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサル

モノハ川、海、湖、ニ歸スルモノトス

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目

ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ

地價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ

料料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租額ヲ追徴ス

但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人、ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサル

トキハ其借地人、小作人、ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ罰ニ當ル者自首スルトキハ

其罰金料料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

●地租條例施行細則

第一條 條例第三條中第二類牧場ハ牧畜用ノ土地ニシテ一區域ヲ爲ス土地トス

第二條 條例第四條中免租ノ制限左ノ如シ

公立學校地ハ校舍建設アル一構内ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ公立農學校ニ於

テ實驗用ニ供スル五町歩以内ノ土地ニシテ借地ニ非サルモノニ限ル

鄉村社地ハ郷社村社ノ現境内ニシテ該社有ノモノニ限ル

禁伐林ハ明治十七年太政官布達第三號ニ據リ樹木斫伐停止ノ土地

鐵道用地ハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例第八條ノ土地

第三條 條例第五條ノ丈量ヲ爲スニ方リ尺度ノ用法ハ左ノ如シ

一間未滿ノ尺度ハ六尺ノ十分一ヲ分ト爲シ分ノ十分一ヲ厘ト爲シ丈量ノ際端尺三寸ヨ

リ五尺七寸マテ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨テ五厘ニ止メ其積

算上ニ於テ一步未滿ヲ切捨ツ可シ但一筆ノ土地ニシテ一步未滿ナルモノハ勾位迄ヲ用

ユ

用街宅地ノ丈量ハ厘位未滿ヲ切捨テ厘位ニ止メ其積算上ニ於テ一勾未滿ヲ切捨テ勾位

第四條 條例第六條ノ丈量ハ所有主之ヲ爲シ地方廳其當否ヲ検査ス但本條ノ場合ニ於テ  
 一筆ノ土地ヲ分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併スルトキハ其殘地若クハ全部ヲ丈量シ  
 其二類地ニ係ルモノハ適宜之ヲ省畧スルコトヲ得  
 第五條 地盤ヲ丈量スルニハ三斜法ヲ用ユ但山林原野等ハ其地形ニ因リ適宜ノ方法ヲ以  
 テ丈量スルコトヲ得

第六條 田畑ハ畦畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ丈量ス  
 第七條 田畑ノ畦畔ニシテ其所有主自由ニ變更ス可キモノハ之ヲ本地ニ量入シ其常ニ變  
 更セサルモノハ之ヲ除却シ其步數ヲ外書トス  
 畑宅地ノ一筆留ノミニ通スル道路及一筆内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總  
 テ本地ニ量入ス

崖高ノ地其崖脚中ノ畝入ニ必要ナル本地ハ之ヲ土地ニ量入シ其崖脚ニシテ相當ノ收利  
 アルモノハ之ヲ本地ニ量入シ若クハ別ニ一筆地トス  
 田畑宅地内ニ別地目ノ瑣少ナルモノ孕在スルトキハ之ヲ本地ニ量入シ内書トス  
 第八條 地價ヲ定メ又ハ修正ス可キ土地ハ所有主ニ於テ近傍類地ト其地方ヲ比較シ又實  
 地ノ情況ニ依リ相當ノ地位等級ヲ調ヘ其願屆書ニ記入スルモノトス  
 前項ノ場合ニ在テ所有主多數ナルトキハ其所有主中ヨリ二名以上ノ總代人ヲ撰ミ調理  
 セシムルコトヲ得

前項ノ地價ハ地方廳ニ於テ検査ノ上之ヲ定ム

- 第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ便宜検査ヲ爲シ五箇年以内ニ檢了スヘシ
- 第十條 條例第十三條第一項未段ノ土地ハ工事ニ着手セシ一筆地限リ其月ヨリ免租ス
- 第十一條 條例第十六條第二項ノ土地ハ同條第一項屆書ニ開墾着手ノ年月ヲ記載ス可シ
- 第十二條 條例第十六條第三項第四項第五項第六項及第二十條年期ノ長短ハ其事案ノ難  
 易被害ノ深淺ニ因リ府縣知事之ヲ定ム
- 第十三條 條例第十八條第二十一條第二十三條第二十四條年期ノ長短ハ實地ノ狀況ニ因  
 リ府縣知事之ヲ定ム
- 第十四條 條例第二十五條第二十六條第二十七條ノ追徵租額ハ犯罪積欠ノ日即チ其月分  
 ヲリ計算ス
- 第十五條 條例中地方廳ヘ差出ス可キ願屆書式ハ府縣知事之ヲ定ム

●地租條例附屬法

◎地租條例及地租條例施行細則取扱方

- 地租條例及地租條例施行細則取扱方左ノ通心得可シ
- 第一條 條例第三條ノ收場ニシテ從來敷地目ニ分割取調ヘタルモノハ訂正ノ手續ヲ爲サ  
 一シム可シ但搾乳營業ノ爲メ獸類ヲ豢養スル場所ハ此限ニ在ラス
- 第二條 條例第十三條ノ禁伐林ニシテ既ニ其命令アルモノハ條例施行ノ月ヨリ其地租ヲ

免除ス可シ

第三條 施行細則第四條ノ検査ヲ爲スニ方リ官ノ地圖ト實地トヲ照査シ其組織ナキヲ認  
認メタル上着手ス可シ

第四條 (廢止)

第五條 (同上)

第六條 條例第二十條第二項ノ土地ニ對シ年期ヲ附與ス可キモノト視認ムルトキハ其狀  
況ヲ具シ當省ヘ稟議ス可シ

第七條 地盤ヲ丈量シタルモノハ其願屆書ニ丈量野取圖ヲ添附セシム可シ

第八條 條例第二十四條ノ荒地ニシテ三海湖ニ歸シタル土地アルトキハ地租組換ノ手續  
ヲ爲ス可シ

第九條 各地目中ニ包含セル現地名稱ハ土地臺帳地目欄内本地目ノ傍ニ記入ス可シ

◎買上地拂下地償地等收稅除稅區分方

地租改正後買上地拂下地償地等收稅除稅區分左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ

第二條 官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ

第三條 民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷其他償シ地トナス時ハ工事着手ノ  
月ヨリ除稅スヘシ一旦着手スルモ若シ工事ヲ中止シテ六ヶ月ニ及ブモノハ工事ヲ施シ  
タル部分ヲ除キ其中止間ハ除稅ノ限ニアラス

但七ヶ月以上ニ涉ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除稅ノ區域ヲ定ムルモノト  
ス

◎島廳郡役所ニ關スル地租事務取扱手續

島廳郡役所ニ關スル地租事務ハ左ノ手續ニ從ヒ取扱ハシムヘシ

但府縣廳ニ於テ本項ノ事務ヲ取扱フ者モ此手續ニ依ルヘシ

◎地租金ノ内田方代米納廢止

朕明治十年第八十號布告廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十年<sup>十一月</sup>第八十號布告本年廢止ス〔第八十號布告ハ地租金ノ内田方ニ限リ當分人民ノ情願ニ任セ代米納差許ノ件〕

◎田畑地價特別修正

朕地租改正以來ノ實歴ニ徵シ此法律ニ指定スル府縣ノ田畑ニ限り地價低減ノ必要ヲ認メ  
地價ノ特別修正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 田畑地價ノ特別修正ヲ爲スヘキ府縣國郡及其修正地價總額左ノ如シ〔修正ヲ爲ス  
府縣國郡及  
其地價件名書  
ハ之ヲ署ス〕

第二條 修正地價總額ニ依リ低減スヘキ市町村田畑ノ地價額ハ大藏大臣之ヲ定メ府縣知  
事ヲシテ達セシム

第三條 此法律ニ依リ地價ヲ低減シタル田畑ノ地租ハ明治二十三年分ヨリ其修正地價ニ  
依リ之ヲ徵收ス

◎荒地等ノ段別年期増減取調差出方

荒地低價地開墾地ノ段別年期ノ増減ハ別紙様式ニ倣ヒ一箇年分取調翌年二月廿八日限  
二十一年分ハ本年 別紙様式ハ主税  
六月三十日限リ 差出カスヘシ 局ヨリ送附ス

但明治十七年四月號外達地租條例取扱心得書様式第五號第六號第七號第八號ノ届出ハ  
自今禁止ス

◎地租徵收期限改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租徵收期限改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス

但市街宅地地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ限リ兩期ニ其五分宛テ徵收ス

二期	該年九月一日ヨリ 同九月三十日限	五分
二期	該年十一月一日ヨリ 同十一月三十日限	五分
三期	該年十二月十六日ヨリ 翌年一月十五日限	五分
三期	該年二月一日ヨリ 同二月二十八日限	五分
四期	同三月一日ヨリ 同三月三十一日限	五分
五期	同五月一日ヨリ 同五月三十一日限	五分
六期	同五月三十一日限	五分

◎震災地方租稅特別處分法

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル震災地方租稅特別處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

◎震災地方租稅特別處分法

第一條 本法ハ三重縣愛知縣滋賀縣岐阜縣及福井縣ニ限リ明治二十四年十月二十八日ノ  
震災ニ因リテ生シタル損害ニ適用ス

第二條 水源涸渴水路破滅等ノ爲地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十四年分  
ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲又ハ其ノ餘害ヲ受ケタル爲收利ノ減  
損甚シキ土地ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ十年以内七割以下ノ低價年期ヲ附與  
スルコトヲ得

第四條 過半ノ家屋燒失若ハ壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キ市街若ハ市街ニ準スヘ  
キ部落ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ七年以内七割以下ノ低價年期ヲ其ノ地ノ宅  
地ニ附與スルコトヲ得

第五條 第三條第四條ノ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ  
地價ヲ修正スルコトヲ得

第六條 地租條例第二十條又ハ本法第二條第三條ノ處分ヲ爲シタル土地ニ係ル地租延納  
年賦金ハ之ヲ免除ス

第七條 居住家屋ノ燒失又ハ其ノ他ノ損害ヲ受タルモノハ被害ノ景況ニ依リ明治二十四  
年分地租未納金ハ明治二十五年ヨリ三年以内延納ヲ許スコトヲ得

第八條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實

況ニ依リ震災前検査済ニ係ル未納造石税ヲ减免スルコトヲ得

第九條 醬油菓子賣藥烟草度量衡ノ營業者ニシテ營業用建物燒失壞倒若ハ大破シタルモ、ノハ其ノ實況ニ依リ左ニ掲クル税金ニ限リ减免スルコトヲ得

一 菓子製造稅度量衡稅ハ明治二十四年後半年分ノ税金

一 醬油營業稅菓子營業稅賣藥營業稅烟草營業稅ハ明治二十五年前半年分ノ税金

第十條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十一條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ス

第十二條 本法ニ依リ處分ヲ受ケントスル者ハ明治二十五年八月三十一日マテニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受ルコトヲ得ス

### ●震災地方租稅特別處分法

第一條 本法ハ秋田縣巖手縣ニ限リ明治二十九年八月三十一日ノ震災ニ因リテ生シタル損害ニ適用ス

第二條 水源涸渴水路破滅等ノ爲地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十九年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲又ハ其ノ餘害ヲ受ケタル爲收利ノ減損甚シキ土地ハ其ノ實況ニ依リ明治二十九年ヨリ十箇年以内七割以下ノ低價年期ヲ付與スルコトヲ得

第四條 市街ニ準スヘキ部落ニシテ過半ノ家屋壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キモノハ其ノ實況ニ依リ明治二十九年ヨリ七箇年以内七割以下ノ低價年期ヲ其ノ地ノ宅地ニ付與スルコトヲ得

第五條 第三條第四條ノ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルコトヲ得

第六條 居住家屋ノ燒失又ハ其ノ他ノ損害ヲ受ケタルモノハ被害ノ景況ニ依リ明治二十九年分地租未納金ハ明治三十年ヨリ三箇年以内延納ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ延納ニ係ル地租ハ年賦納付ヲ許可スルコトヲ得

第七條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ震災前検査済ニ係ル未納造石稅ヲ减免スルコトヲ得

第八條 菓子賣藥ノ營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ菓子製造稅ハ明治二十九年分未納稅金賣藥營業稅ハ明治三十年前半年分ノ稅金ニ限リ減免スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ處分ヲ受ケタル者ハ明治三十年七月三十一日迄ニ申出ツヘシ若此期限内ニ申出テサル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

●水害地方地租特別處分法

第一條 本法ハ明治二十九年七月ヨリ十月迄ノ洪水ニ因リテ生シタル損害地ニ適用ス

第二條 荒地ニ至ラサルモ收穫皆無トナリタル土地ニ限リ明治二十九年分ノ地租ヲ免除ス

第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治二十九年分ニ限リ之ヲ免除ス

第四條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ地租ノ徵收ヲ猶豫ス

第五條 本法施行前ニ徵收シタル既納ノ地租金ハ之ヲ還附ス

第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治三十年六月三十日迄ニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法處分ヲ受クルコトヲ得

附 則

第八條 此法律ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セズ

### ●所得税法

第一條 凡ノ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此

税法ニ依テ所得税ヲ納ムヘシ

但同居ノ家族ニ属スルモノハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニ  
アラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩  
給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若  
クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、  
販賣品ノ原價、種代、肥料營利事業ニ属スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負  
債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間平均高キヲ以テ算出スヘシ但シ所得收入以來未タ三年  
ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲クルモノハ所得税ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ属セサル一時ノ所得

第四條 所得税ノ等級及稅率左ノ如シ

等級

第一等 所得金高三萬圓以上 百分ノ三

第二等 所得金高貳萬圓以上 百分ノ二半

第三等 所得金高壹萬圓以上 百分ノ二

第四等 所得金高千圓以上 百分ノ一半

第五等 所得金高三百圓以上 百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ

第六條 此税法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ每  
年四月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所  
得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調查委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ

第八條 調查委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調查委員ノ選舉人被選人ハ二十五歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅  
ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選



八タルコトヲ得ス同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中

第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉スヘシ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其屆書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅

者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 納稅者ニシテ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證憑トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其逃稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徴シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此税法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此税法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給、手當、年給及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

附則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限リ七月三十一日迄ニ差出スヘシ

●所得税法施行細則

第一條 戶主ニ所得ヲクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納税スヘキモノトス

第二條 税法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三箇年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス

第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ

第四條 税法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納税管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡(區)長ニ届出此税法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

一 此税法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者 一 内外國ニ施行シ又ハ外國若クハ此税法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納税者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ生入スル者ハ其居住地ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納税地ノ郡區長ニ送付スヘシ但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ附スヘシ

第八條 納税者他ノ郡區役所管轄内ニ轉居セントスルトキ及ヒ轉居シタルトキハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受タルトキハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スヘシ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納税者ト認ムルモノ、所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一個人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ税法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納税者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ

第十二條 調査委員會及ヒ調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ己ムヲ得スト思料スル事故アルモノニ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スヘシ

第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年入月十日マテニ之ヲ達スヘシ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ劃シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定スヘシ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半數出席セス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則 本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十二月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ

(書式第一號)

所得金高届

印ハ朱書

○稅法第二條第一項ノ所得金ハ公價證書株券貸金俸給其他共稅法ノ掲記ニ從ヒ各別項ニ記スルヲ要ス

金何圓

何々ノ利息又ハ利益配當金又ハ何々

金何圓

貸金ノ利息

稅法第二條第二項ノ所得金營業並ニ資産ノ種類ヲ別チテ之ヲ記スルヲ要ス但各種混同ニシテ所得ヲ分別シ難キモノハ之ヲ合記スヘシ其支店分店及ヒ居住  
地外ニ屬スルモノハ每箇所ノ所得ヲ別項ニ記シ其所得アル町村名ヲモ併記ス  
ヘシ若シ其所得混同スルモノハ之ヲ合記スヘシ又扣除スヘキ金額ハ外書トシ  
テ各本項ハ掲ケタル種類ニ屬スル費用ニ係ハルモノ、ミナ記スヘシ

金何圓

何々ノ所得

外

金何圓

何租、何稅、區町村費、備荒儲蓄金

金何圓

製造品原質物、代金、商品原價

金何圓

借地借家料、何々借入料、何々修繕料

金何圓

種代、肥代、何々買入代金

金何圓

雇人給料、何々手當、何々費

金何圓

何々ニ係ル負債ノ利息

小以金

所得高計金

右之通ニ候也

年月日

二四

何府何郡何町居住(又ハ寄留)  
何縣何區何町居住(又ハ寄留)  
(若シ管理人ナルトキハ) 誰  
何府何郡何町何誰納稅管理人  
何縣何區何町何誰納稅管理人  
何町

郡長宛  
區長宛

(書式第二號)

所得稅納入地届  
所得及扣除金ノ區分方ハ總  
テ第一號書式ニ準據スヘシ

金何圓  
金何圓

何々ノ所得  
何々ノ所

外

金何圓

何々

金何圓

何々

小以金

所得高計金何圓

右ハ御所轄郡區内ノ所得金ニ有之候處税金ハ何府何郡何町村ニ於テ合算ノ上相納候ニ付  
此段及御届候也

年月日

何府何郡何町居住(又ハ寄留)  
何縣何區何町 何ノ誰

(若シ管理人ナルトキハ)

何府何郡何町何誰納稅管理人  
何縣何區何町何誰納稅管理人

何町

何ノ誰

郡長宛  
區長宛

(書式第三號)

明治 年 何郡何町 何 誰  
何等所得税金、、、圓  
右所得稅ノ等級金額頭書ノ通相定ム但之ヲ不當トスルトキハ所得稅法第十九  
條ニ據リ申出ヘシ

年月日

何郡長

何

誰印

二五

◎市制町村制施行地ノ所得稅

朕市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市制町村制施行ノ地ニ在テハ所得稅法第六條ノ屆書ハ町村ニ於テハ町村長ヲ經テ郡長ニ市ニ於テハ市長ヲ經テ府縣知事ニ之ヲ差出第七條第八條ノ調査委員ハ郡役所管轄内及市ニ東京市京都市大阪市ハ區ニ置キ其區域内ニ於テ之ヲ選舉シ第九條ノ調査委員ノ選舉人ハ被選舉人ノ現住ハ調査委員會設置區域内トシ第十條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ市ニ東京市京都市大阪市ハ區ニ郡長ニ町村ニ若干名ノ選舉人ヲ定メ第十七條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行ヒ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ第二十條ニ依リ處分スヘシ又第十三條第十四條第十五條第二十三條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行フヘシ但第十五條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ部下ノ官吏ヲシテ代理ヲ爲サシムコトヲ得

◎市制施行地ニ於クル所得稅其他諸稅等ニ關シ心得方

市制施行ノ地ニ於テハ所得稅法施行ニ關シ府縣知事大藏大臣ノ認可ヲ受ケ若干名ノ臨時取調掛ヲ置キ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

市制施行ノ地ニ於テハ諸稅ニ關スル當省令達告示中郡區長又ハ郡區役所トアルハ府縣知事又ハ府縣廳、郡區及郡役所所轄トアルハ東京市京都市大阪市ハ區、戶長又ハ戶長役場トアルハ市長又ハ市役所ト心得ヘシ

町村制施行ノ地ニ於テハ諸稅ニ關スル當省令達告示中戶長又ハ戶長役場トアルハ町村長

又ハ町村役場ト心得ヘシ

市制町村制施行ノ地ニ於テハ諸車ノ檢印ヲ請ハント欲スルトキハ市ニ於テハ府縣知事、町村ニ於テハ郡長ニ申出ヘシ

◎所得稅納稅届出ノ書面誤訂正申立取扱方

所得稅納稅者届出テタル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出ツルトキハ郡區長之ヲ審査シ其事實明確ト認ムル者ニ限り左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱フヘシ

第一項 調査委員會開會以前ニ申出ツル者ハ郡區長ニ於テ之ヲ訂正セシムヘシ

第二項 届出ノ重複ニ涉レル者ハ調査委員會決議後ト雖モ郡區長ニ於テ之ヲ訂正スル

コトヲ得

第三項 第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議後ニ係ル者ハ所得稅法第十

八條第二十條ニ據リ處分スヘシ

●登録税法

第一條 登録税法ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第二條 地所、建物ノ登記ヲ請フ時ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

一 買受人

賣買代價千分ノ二十

二 家督相續人(戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ五

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル時ハ時價相當價格千分ノ十トス

三 遺産相續人

時價相當價格千分ノ十

四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者

時價相當價格千分ノ二十

五 質入人又ハ書入人

契約金額千分ノ五

六 強制競賣ノ申立入

價格千分ノ五

七 強制管理ノ申立人又ハ假差押、假處分ノ申請人

價格千分ノ三

八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者

每一件金十錢

九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲メ登記ヲ請フ者時價相當價格千分ノ二

六號及ヒ七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル

第三條 船舶ノ登記ヲ請フ時ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

一 買受人

賣買代價千分ノ十

二 家督相續人(戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ二

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ五トス

三 遺産相續人

時價相當價格千分ノ五

四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者

時價相當價格千分ノ十

五 質入又ハ書入人

契約金額千分ノ五

六 強制競賣ノ申立人

價格千分ノ五

七 假差押、假處分ノ申立人

價格千分ノ三

八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者

每一件金十錢

九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲メ登記ヲ請フ者 時價相當時價千分ノ二

六號及ヒ七號ノ場合ニ於テ價格ノ定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル

第四條 船舶ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

一 新規登録 十五噸未満ノ船舶 金五十錢 十五噸以上ノ船舶 每十噸金五十錢

二 轉籍 十五噸未満ノ船舶 金十錢 十五噸以上ノ船舶 每十噸金十錢

三 除籍 十五噸未満ノ船舶 金五錢 十五噸以上ノ船舶 每十噸金五錢

四 登簿事項ノ變更 每一件金十錢

二號、二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキハ十噸未満ノ端數ハ

十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スル時ハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム

可シ

- 一 新規登録 地價千分ノ二十
  - 二 地價ノ設定(復舊トモ) 地價千分ノ十
  - 三 地價ノ修正 地價千分ノ十
  - 四 開墾 地價千分ノ十
  - 五 鐵下年期附與 地價千分ノ十
  - 六 地價据置年期附與 地價千分ノ十
  - 七 鐵下年期ノ繼年期附與 地價千分ノ十
  - 八 新開免租年期ノ繼年期附與 地價千分ノ十
  - 九 低價年期ノ附與 地價千分ノ十
  - 十 段別ノ増減 地價千分ノ五
  - 十一 分裂又ハ合併 地價千分ノ五
- 本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地々價ノ比準ニ依ル
- 第六條 左ノ事項ニ付キ登記ヲ受クル商事會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 合名會社、合資會社設立 資本金額千分ノ二
  - 二 合名會社、合資會社資本増加 增加資本金額千分ノ二
  - 三 合名會社、合資會社支店設置 會社資本金額萬分ノ二
  - 四 株式會社設立 設立初度ノ拂込資本金額千分ノ三

- 五 株式會社設立後ノ資本金拂込 每拂込金額千分ノ三
  - 六 株式會社支店設置 現在拂込資本金額萬分ノ三
  - 七 登記事項ノ變更(資本金ノ増加及追加拂込登記ヲ除ク)追加 每一件金三圓
  - 八 解散 每一件金壹圓
- 第七條 左ノ事項ニ付辨護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從テ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 新規登録 金二十圓
  - 二 登録替 金拾圓
  - 三 取消ノ請求 金壹圓
- 第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スル時ハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 新規登録
    - 醫師 金二十圓
    - 藥劑師 金拾二圓
    - 獸醫 金拾二圓
    - 蹄鐵工 金五圓
    - 假開業醫師 金五圓
    - 假免許獸醫 金三圓
  - 二 登錄事項ノ變更 每一件金五拾錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スル時ハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ  
二 新規登録

- 甲種船長 金拾五圓
- 甲種一等運轉手 金拾圓
- 甲種二等運轉手 金六圓
- 甲種一等機關手 金拾五圓
- 甲種二等機關手 金拾圓
- 乙種船長 金六圓
- 乙種一等運轉手 金四圓
- 乙種二等運轉手 金四圓
- 乙種一等機關手 金十圓
- 乙種二等機關手 金六圓
- 小形船機關手 金四圓
- 水先人 金二拾圓

二 登録事項ノ變更 每一件金五拾錢

第十條 版權ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

- 二 普通ノ文書圖畫 一種毎ニ金五圓
- 二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書圖畫 二冊毎ニ金二圓五拾錢

三 雜誌ノ類 一冊毎ニ金五拾錢

四 興行權ヲ併有スル脚本 一種毎ニ金五拾圓

五 興行權ヲ併有スル樂譜 一種毎ニ金二拾圓

六 寫眞 一版毎ニ金五圓

第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

- 一 新規登録
  - 五年ノ特許 金貳拾圓
  - 十年ノ特許 金三拾圓
  - 十五年ノ特許 金四拾圓
- 二 賣與、讓與又ハ共有 每一件金十圓
- 三 書入契約 每一件金五圓

第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

- 一 新規登録
  - 三年ノ專用 物品一類毎ニ金三圓
  - 五年ノ專用 物品一類毎ニ金五圓
  - 七年ノ專用 物品一類毎ニ金七圓
  - 十年ノ專用 物品一類毎ニ金拾圓
- 二 賣與、讓與又ハ共有 物品一類毎ニ金貳圓



三 書入契約

物品一類毎ニ金壹圓

第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

一 新規並續用登録

商品一類毎ニ金貳拾圓

二 賣與、讓與又ハ共有

商品一類毎ニ金十圓

第十四條 礦業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

一 試掘

金五拾圓

二 探掘

金百圓

三 試掘増區及増減區ニ係ル訂正

金廿五圓

四 探掘増區及増減區ニ係ル訂正

金五拾圓

五 買受、讓受

金五拾圓

六 探掘權書入又ハ試掘延期

金拾五圓

七 減區ニ係ル訂正

金五圓

八 鑛區ノ合併又ハ分割

金十圓

九 廢業

金五圓

第十五條 國債證券ノ記名ヲ請フモノハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

一 新規記名

額面金額千分ノ二

二 左ニ列記スルモノ

額面金額千分ノ一

記名變更

枚數變更

枚數除却

第十六條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ム可シ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ

徴收スルヲ得

第十七條 登録稅ハ總テ金壹錢以上トス壹錢未滿ノ端數ハ壹錢トシテ之ヲ計算ス

附 則

第十八條 本法ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

第十九條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録稅ト

重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●營業稅法

營業稅法

第一條 左ニ掲クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

一 物品販賣業

一 銀行業

二 保險業

二 金錢貸附業

- 一 物品貸附業
- 一 製造業
- 一 運送業
- 一 倉庫業
- 一 運河業
- 一 棧橋業
- 一 船渠業
- 一 船舶碇繫業
- 一 貨物陸揚場業
- 一 土木請負業
- 一 勞力請負業
- 一 印刷業
- 一 寫真業
- 一 席貸業
- 一 旅人宿業
- 一 料理店業
- 一 公ナル周旋業
- 一 代辦業

三 仲立業

一 仲買業

第二條 營業稅ヲ課ス可キ物品販賣業ハ一定ノ店舖其他營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲナスモノヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス

- 一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スル事ナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スルモノ
- 一 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者
- 一 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鵝卵、牛乳等其產物ヲ販賣スル者
- 一 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者
- 一 動植物其他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者
- 一 箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業者其製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及ヒ別ニ營業場ヲ設ケ其製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課ス可キ金錢貸付業及ヒ物品貸附業ハ一定ノ店舖其他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノハ貸附ヲ爲スモ亦同シ  
資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業稅ヲ課スヘキ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條 運賃又ハ手數料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲナシ又ハ其取扱ヲナス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條 印刷業、寫眞業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサルモノ及ヒ土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條 貸料又ハ其他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃貸價格拾五圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ハラズ旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木賃宿ニハ營業稅ヲ課セス

第十條 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スルモノトス

第十一條 左ニ掲クル營業稅ヲ課セス

- 一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌
- 二 自己ノ探堀又ハ採取シタル礦物ノ販賣
- 三 度量衡ノ製作修覆販賣

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	卸賣ハ萬分ノ五、小賣ハ萬分ノ十五
銀行保險業	資本金額	一人毎ニ金壹圓
保銀業	資本金額	一人毎ニ金壹圓
金錢貸附業	資本金額	一人毎ニ金壹圓
倉庫業	資本金額	一人毎ニ金壹圓
製刷業	資本金額	千分ノ一
印刷業	資本金額	千分ノ四
寫眞業	資本金額	二人毎ニ金壹圓
職工勞力者	職工勞力者	二人毎ニ金三十錢

運送業、運河業、棧橋、資本金額	千分ノ二半
業、船渠業、船舶碇繋、場業、貨物陸揚場業	從業者 二人毎ニ金壹圓
土木請負業	金額者 千人毎ニ金一圓
勞力請負業	金額者 三人毎ニ金一圓
席理店業	從業者 千分ノ六十
料理店業	從業者 二人毎ニ金一圓
旅人宿業	從業者 千分ノ四十
旅人宿業	從業者 二人毎ニ金一圓
公ナル周旋業	報償金額者 百圓毎ニ金一圓
代辦業	報償金額者 一人毎ニ金壹圓
仲買業	從業者 一人毎ニ金壹圓

第十三條 此稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ届出可シ但シ新ニ開業シタル者ハ其際本條ノ届出ヲ爲ス可シ

營業者廢業シタル時ハ其際政府ニ届出可シ

第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニシテ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其一ニ就テ計算ス其稅率與ナルトキハ重キニ從フ

第十五條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辦業、仲買業、仲立業ハ各店舖其他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス

前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舖其他ノ營業場數箇所アル時其資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス

第十六條 第十三條ニ依リ届出可キ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一 賣上金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル

二 資本金及建物貸賃價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル

三 從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル

第十七條 營業者ノ申告シタル資本金額ヲ以テ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其營業ノ收入金額ヲ調査シ相當ノ營業費ヲ控除シ其殘額ノ廿倍ヲ以テ資本金額ヲ算定スル事ヲ得

第十八條 建物貸賃價格ハ店舖其他營業用ノ土地、家屋借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區内ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ルニ拘ハラズ土地、建物ノ貸借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物貸賃價格ヲ計算ス

借家ニアラサル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ヲ標準シテ建物貸賃價格ヲ定ム近傍ニ照

準スヘキ借家ナキトキハ其土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其貸賃價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

營業者ノ申告シタル貸賃價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ前項ノ算定方法ニ依リ其貸賃價格ヲ定ムル事ヲ得

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スルモノハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第廿條 營業稅ハ年額ヲ二分シ其年五月十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキハ未納ノ税金ハ即納トス

第廿一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲ケタル營業ヲ開業ノ翌年ヨリ尙三ケ年間ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此稅法施行前ヨリ營業スル者ニシテ其開業ノ翌年ヨリ三ケ年ニ滿タルハ本項ニ準據スル事ヲ得

銀行業 保險業 倉庫業 製造業 印刷業 運送業 運河業 船渠業 船舶碇繋場業

第廿二條 同一ノ場所ニ於テ六ケ月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開業スルモノハ其月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第廿三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ム可キ事實アル時ハ納期ニ於テ現ニ營業スルモノヨリ營業稅ヲ徵收ス

第廿四條 營業者廢業スルトキハ其廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其營業ヲ繼續スルトキハ前條ニ同シ

第廿五條 第廿二條及第廿三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第廿一條ノ期間内ニアルトキハ其期間ハ後ノ營業者ニ及ブモノトス

第廿六條 政府ニ於テ營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物貸賃價格ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第廿七條 前條ノ算定ニ對シ異議アル時ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムル事ヲ得但シ此場合ニ於テ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第廿八條 第十八條第三項ノ建物貸賃價格算定ニ付異議ノ申立アリタル時ハ評價人ヲ定メ之ヲ評價セシム評價一致セサル時ハ其平均ヲ以テ之ヲ定ム

第廿九條 左ノ場合ニ於テ戶長、沖繩縣ニ於テ役所長ヲ行フ

一 課稅ノ標準タル資本金額、賣上金額、報償金額又ハ建物貸賃價格半額以上ヲ減シタルトキ

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員届出人員二分ノ一以下ニ減シタル時

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムル時ハ翌年一月迄税金ノ徵收ハ猶豫スル事ヲ得

第卅一條 政府ハ第廿九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ查覈シ左ノ場合ニ該當スルトキハ税金ヲ減額スル事ヲ得

一 課稅ノ標準タル賣上金額、請負金額、報償金額ハ前々年中ノ總額資本金額、建物

貸賃價格ハ前々年中ノ平均額ヲ半額ニ達セサルトキ

二 課税ノ標準タル従業者ノ人員其最多數ノ時ニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セザル  
トキ

課税標準ノ課税最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其割合ヲ以テ税金ヲ徴收ス

第卅二條 第一條ニ掲クル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受人、代附、廻送、従業者ノ人  
員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲メ帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載ス可  
シ

第卅三條 收税官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スル事ヲ得

第卅四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若クハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條  
ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科  
料ニ處ス其脱税シタル者ハ脱税金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第卅五條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪、減輕、再犯、加重、數罪俱發ノ例ヲ  
用ヒス

第卅六條 府縣ハ此税法ニ依リ納税義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本税十分ノ二以内  
ノ附加税ヲ課スル事ヲ得此附加税ノ外府縣税又ハ地方税ヲ課スル事ヲ得

附 則

第卅七條 此税法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第卅八條 明治廿九年度ニ屬スル府縣税又ハ地方税ハ第卅六條ノ規定ニ依ルノ限リニア  
ラス

明治二十九年年度ニ屬スル府縣税又ハ地方税ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此税法ノ營  
業税ハ明治三十年ニ限リ年額四分ノ三ヲ徴收ス

第卅九條 第二十條五月ノ納期ハ明治卅年ニ限リ七月トス

●營業税法施行細則

(勅令第二百六十九號)

第一條 營業税法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二條以下ノ規程ニ依リ營業税ヲ課  
セラルヘキ者ハ其ノ店舗其ノ他ノ營業場所所在地ノ地方長官ニ同法第十三條ノ届出ヲ爲  
スヘシ但シ同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於テハ其主タル店舗其ノ他ノ營業場所  
地ノ地方長官ニ届出ヘシ

左ニ揚クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以内ニ地方長官ニ新規開業  
ノ届出ヲ爲スヘシ

一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサルモノニシテ新ニ店舗其ノ他ノ營業場  
ヲ増設スル者

三 新ニ營業ノ種類ヲ増加スル者

第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トチ  
問ハス營業ノ種類並ニ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ区分シテ營業税法第十二條ノ課税標  
準ヲ計算スヘシ但シ課税標準トナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ  
於テハ税率ノ最重キ營業税率等シキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課税標準ヲ計算ス

へ

第三條 同一人ニシテ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業税法第十二條ノ課税標準ヲ計算スヘシ

第四條 營業税法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業税ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課税標準ヲ計算スヘシ

第五條 株式會社ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其他ノ積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條 合資會社ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル登記濟出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條 合名會社ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項總社員ノ出資額中勞力ノ出資アルトキハ其ノ價格ハ會社契約ニ定メタル價額ニ依ル但シ會社契約ニ其ノ勞力ノ價額ヲ定メサルトキハ各社員損益共分ノ割合ニ從ヒ之ヲ算定スルモノトス

第八條 一個人ニ於テ課税標準ト爲スヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス  
前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具、器械ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條 課税標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ

第十條 營業税法第十七條ニ依リ控除スヘキ營業費ハ營業上直接ニ必要ト認ムヘキ費用ニ就テ算定スヘシ

第十一條 營業税法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスルトキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土地ハ營業税法第十八條第二項ニ依リ建物ハ同條第三項ニ依リ其ノ賃貸價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業税法第十八條第三項ニ依リ其ノ建物賃貸價格ヲ計算スヘシ建物中雜作全部ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條 從業者營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否ト使役ノ當時タルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主ト同一戸籍内ニ在ル者ヘ計算セス

第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以  
内ニ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以  
内ニ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ其ノ移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ雙方ニ届出ヘシ  
第十五條 營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増  
設シタル者ハ其ノ増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヘシ

第十六條 地方長官ハ營業者ノ申告ヲ相當ト認ムルトキハ營業稅法第十二條ノ稅率ニ從  
ヒ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

營業者ノ申告ナキトキハ地方長官ハ營業稅法第十六條ノ算定方法ニ依リ其課稅ノ標準  
ヲ計算シ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

第十七條 地方長官營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃借價格ヲ算定シタ  
ルトキハ其ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ  
營業稅法第二十七條ノ期限内ニ地方長官ニ申出ヘシ

第十九條 地方長官ハ資本金額再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ更ニ營業者ノ提出シタル  
理由書ニ據リ當初ノ算定ヲ再査シ其ノ訂正スヘキハ之ヲ訂正シ決定書ヲ作り之ヲ異議  
申立人ニ通知スヘシ

第二十條 地方長官ハ建物賃借價格再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ土地建物所  
在地ノ市町村長ニ通知シ評價人ヲ選定セシメ同時ニ政府ヨリ命スヘキ評價人ヲ選定ス  
ヘシ

第二十一條 評價人ハ滿廿歲以上ノ男子ニ就テ選定スヘシ但シ異議申立人ノ親族其ノ他  
當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ之ヲ選定スルコトヲ得ス

土地建物ノ敷市町村ニ在リテ其ノ賃借價格ヲ合算スル場合ニ於テハ其ノ所在市町村毎  
ニ評價人ヲ選定スヘシ

第二十二條 評價人定マリタルトキハ地方長官ハ場所期日ヲ定メ評價人ヲ會合シ其ノ評  
價ヲ爲サシムヘシ  
評價人評價ヲ終リタルトキハ直ニ評價書ヲ作り評價金額並ニ其ノ理由ヲ記載シ地方長  
官ニ提出スヘシ

地方長官ハ前項評價書ニ依リ建物賃借價格ヲ定メ其ノ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ  
通知スヘシ  
第二十三條 營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニ於テ營業者數箇ノ店舗其ノ  
他ノ營業場ヲ有シ其ノ管轄地方ヲ異ニスルトキハ其ノ資本金額建物賃借價格ノ評價ニ  
關スル事務ハ之ヲ土地建物所在地ノ地方長官ニ囑託スヘシ

第二十四條 營業稅法第二十八條第二項但書ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用ノ評價  
人ノ手當及評價人集會ノ費用トス  
第二十五條 前條評價人ノ手當ハ每事件一人金壹圓五十錢トシ評價人集會ノ費用ハ會場



借料並ニ會場雜費ニ限ル

第二十六條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申立アリタルトキハ地方長官ハ課稅標準額算定ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スルトキハ其ノ課稅標準額ノ全部ヲ改算スヘシ

第二十七條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ地方長官ニ届出ヘシ

第二十八條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ地方長官ノ檢査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附 則

第二十九條 營業稅法第二十一條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要スル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添ヘ明治三十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其ノ開業年月日ヲ届出ヘシ

●營業稅法ニ關スル業名及課稅標準届書差出方

明治二十九年法律第三十三號營業稅法ニ關スル業名及課稅標準届書ハ左ノ様式ニ準シテ調整シ所轄稅務署ニ差出スヘシ但シ北海道ハ明治三十年三月三十一日マテハ所轄郡區役所ニ差出スヘシ

課稅標準中資本金額、建物賃貸價格及從業者ハ各其ノ計算ヲ明カニスル爲メ計算ノ基ク處及營業稅法施行規則第二條但書ニ關スル計算上ノ要件ヲ詳記シタル明細書ヲ届書ニ添附スヘシ但シ課稅標準額ヲ豫算スル場合ニ於テハ賣上金請負金及報償金ト雖トモ仍本項ニ準據スヘシ

明治何年營業名及課稅標準届

營業場 北海道 何郡(市)(區)何町(村)大字何何番地商號

何々業

何々商(何々製造)

一 賣上金額 卸賣何程 小賣何程

一 資本金額 何程

一 請負金額 何程

一 報償金額 何程

一 建物賃貸價格 何程

一 從業者 何人(内職工何人勞役者何人 職工勞役者ヲ課稅ノ要件トナスモノニ限ル)

何年何月何日開業（營業税法第十三條第一項）  
右之通ニ候也（但書ニ該當スル者ニ限ル）

住所（會社ノ位置）

年月日

氏名印

（何々會社代表者氏名印）

北海廳長官 氏名宛  
某地稅務管理局長氏名宛

備考

- 二 營業稅第一條ノ營業種類及營業稅ヲ課セラルヘキ店舗其ノ他營業場毎ニ各別紙ニ記載スヘシ但シ一稅務署所轄内（北海道ハ明治三十年三月三十日マテハ郡區役所所轄内）ニ於テ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ同種ノ營業ヲ爲ス者ハ其ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ區分シテ業名及課稅標準ヲ記載スルモ妨ケナシ
- 三 一稅務署所轄内（北海道ハ明治三十年三月三十日マテハ郡區役所所轄内）ニ於テ數種ノ營業ヲ爲ス者ハ各屆書中營業名掲記ノ下ニ其ノ兼業名ヲ記載スヘシ
- 三 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始シタル者ハ開業年月日ノ下ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

### ●酒造稅法

- 第一條 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、酒精ノ六種トス
  - 第二條 酒類ヲ製セントスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢セントスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ
  - 第三條 其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス
  - 第四條 酒類ヲ製造スル者ハ其造石數ニ應ジ左ノ割ニ從ヒ造石稅ヲ課ス
    - 第一種 酒清 白酒 味淋 一石 金七圓
    - 第二種 濁酒 一石 金六圓
    - 第三種 燒酎 酒精 一石 金八圓
- 但シ當分ノ内北海道ニ於テハ渡島國一圓後志國ノ内八郡（磯谷郡歌葉郡壽都郡太櫛郡瀨棚郡久遠郡奥尻郡島收郡）膽振國ノ内一郡山越郡ヲ除ク外各種一石ニ付金一圓減ス

- 第五條 新ニ清酒製造ノ免許ヲ受クル者ハ造石高百石以上ニ非サレハ許可セズ
- 第六條 造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

第一期 七月一日ヨリ同十五日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期 九月一日ヨリ同十五日限

同上

第三期 翌年一月一日ヨリ同十五日限

同上及其年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期 翌年三月一日ヨリ同十五日限

前納額ノ殘數

第七條 政府ハ酒類ヲ製造スル者脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムル時ハ前條ノ納期ニ拖ハラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 酒類ノ造石稅ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ査定石數百分ノ二以内ノ率引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醗ハ左ノ場合ニ於テ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其造石數ヲ査定ス

一 他人ニ讓渡ストキ

二 公賣セラルトキ

三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石稅ヲ免カル、トテ得ス

第十二條 左ノ酒類ニ係ル未納ノ造石稅ハ之ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此限ニアラス

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 酒類ノ腐敗シテ廢棄ニ屬シタルモノ

三 腐敗シタル酒類ニシテ蒸溜酒ノ製造ニ供スルモノ

四 容器ノ損傷ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スルモノハ納稅保證トシテ造石稅半額ニ相當スル保證物ヲ供スルハ保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一 相當ノ納稅保證人ヲ供シタルトキ

二 納稅保證トシテ造石稅額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

三 造石稅ヲ前納シタルトキ

第十五條 酒類ヲ製造スル者稅金ヲ納メサルトキハ政府ハ納稅保證ニ供シタル保證物及

保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ造石税金ヲ徴收スヘシ但シ仍滞納アルトキ滞納處分ノ執行ヲ妨ケス

第十六條 納税保證人ハ酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサルトキハ納税者トシテ其義務ヲ負擔スルモノトス

第十七條 酒類ヲ製造スル者納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條 收税官吏ハ命令ノ規程ニ依リ酒類ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造上必用ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必用ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條 酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セントスルトキハ政府ノ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シク其檢査監督ヲ受クヘシ

第二十一條 酒類ヲ製造セサル者其製造ニ係ル醪ヲ飲料ニ供シ又ハ飲料トシテ讓渡シタルトキハ濁酒ヲ製造スル者トシ其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石税ヲ課ス

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類、酒類製造用ノ爲メ酒母若クハ醪ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母若クハ醪ヲ以テ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ醪、濁酒、白酒、燒酎、製造用ノ爲メ酒母一斗以下ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母ヲ以テ醪、濁酒、燒酎、白酒ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三石以下ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ本項前段ノ場合ニ於テ酒母ノ量數不明ナルモ其製造シタル醪若クハ酒類ノ量數一種若クハ數種ヲ通シテ三石以下ナルトキハ仍本項ニ依ル

第二十三條 酒類ヲ製造セサル者免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレントシタルトキハ其石數ノ造石税三倍ニ相當スル罰金若クハ科料ニ處ス

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石税ノ免除ヲ得又ハ得ントシタルトキハ其石數ノ造石税三倍ニ相當スル罰金若クハ科料ニ處ス

第二十六條 納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滞納處分ヲ受ケルモ仍税金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其不足造石税ノ三倍ニ相當スル罰金若クハ科料ニ處ス

第二十七條 酒類製造用ト否トテ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ檢査ヲ受ケサル者ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第廿九條 酒類ヲ製造スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リク者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第卅條 酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第卅一條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第卅二條 酒類ヲ製造スル者ノ代理人、家族、同居者、雇人其他ノ從者ニシテ其業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ此ノ稅法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第卅三條 第廿九條乃至第三十二條ハ酒類ヲ製造セサル者ニシテ酒母又ハ醱ヲ製造スル者ニモ適用ス

第卅四條 酒類ヲ製造シタル者ハ製造ヲ廢シスルモ造石稅完納前ニ在リテハ總テ此稅法ノ規程ニ從フモノトス

第卅五條 府縣及市町村ハ此ノ稅法ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ特令アルモノヲ除キ府縣稅若クハ地方稅及市町村稅村費ヲ課スコトヲ得

附 則

第卅六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ

製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第卅七條 此ノ稅法ハ明治廿九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十二號及

同二十二年法律第二十四號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年 三十日前檢査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年布告第四

十號ニ依ル

第卅八條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ハ當分此ノ稅法ヲ施行セス

● 混成酒稅法

第一條 此ノ稅法ニ於テ混成酒トスルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 酒類ト他ノ物品トヲ和シテ一種ノ酒類トナシタルモノ

二 二種以上ノ飲料酒類ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

三 一種又ハ二種以上ノ飲料酒類ト他ノ物品ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタル者

四 飲料酒類ニ酒精若クハ燒酎ト水ヲ混和シタルモノ

第二條 混成酒ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數一石ニ付金六圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

混成酒元用トシテ酒造稅法ニ掲クル酒類ヲ製造スル者ニハ該稅法ノ造石稅ヲ課ス

第三條 第一條第四號ノ混成酒ヲ製造スルモ別種ノ飲料トナラス單ニ酒造稅法ノ酒類ノ

造石數ヲ增加スルニ止ルモノハ其增加石數ノミニ課稅ス

第四條 造石稅ノ納期ヲ左ノ二期トス但シ廢業シタル者ハ即納トス

第一期 其ノ年七月一日ヨリ同三十一日限

一月一日ヨリ六月三十日迄査定済石數ニ係ル稅額

第二期 翌年一月一日ヨリ同三十一日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定済石數ニ係ル稅額

第五條 混成酒ヲ製造スル者ハ收稅官吏ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第六條 第五條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 造石稅法第二條第七條第八條第十一條第十八條第十九條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十六條ハ混成酒ノ製稅ニ適用ス

附 則

第八條 此稅法ハ明治廿九年十月一日ヨリ施行ス

第九條 沖繩縣東京府管下小笠原伊豆七島ニハ當分此稅法ヲ施行セス

●自家用酒稅法

第一條 濁酒、白酒、燒酎ニ限リ自家用トシテ製造セントスル者此稅法ニ依リ製造免許ヲ出願スルトキハ政府ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 自家用酒ノ製造免許ハ一家一人ニ限ル其造石數ハ各酒類ヲ合セテ一酒造年度間

(其ノ年十月ヨリ翌年九月マテ)二石以下トス但シ直接國稅ヲ納メサル者及其納額五圓未滿ノ者ハ其造石數一石ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 自家用酒ノ製造ヲナス者ニハ毎年度左ノ製造稅ヲ課ス

一 前條但書ニ該當スル者

二 直接國稅五圓以上十圓未滿ノ者

一石迄 金 三 圓

二石迄 金 八 圓

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シ其年月及翌年四月ヲ以テ納期トス但シ納期後ニ免許ヲ受クルトキハ即納トス

第五條 左ニ掲クル者及其家族、同居者、同居ノ雇人ハ自家用酒製造ノ免許ヲ請フコトヲ得ス

一 直接國稅十圓以上ヲ納ムル者

二 酒類製造營業人及酒類販賣人

三 醬油製造營業人及醬油販賣人

四 酒母又ハ膠製造人及酒母販賣人

五 酢製造營業人及酢販賣人

六 料理店、飲食店、旅人宿營業者

自家用酒造ノ免許ヲ得タル者前各號ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ其免許ノ効力ヲ失フ

モノトス

第六條 自家用酒ハ製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ各自ノ居宅域内ニ限り之ヲ製造スルコトヲ得

第七條 收税官吏ハ自家用酒製造者ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第八條 自家用酒製造者其製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ其居宅域外ニ於テ自家用酒ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 自家用酒製造者免許制限ヲ超過シテ酒類ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其超過石數ニ對シ酒造税法第四條ノ造石税ヲ課ス

前項ノ造石税ハ即時之ヲ徴收ス

第十條 自家用酒製造者元用トシテ清酒、味淋、酒精ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ酒造税法ニ依リ處分ス

第十一條 第七條ノ検査ニ關シテハ酒造税法第三十條ヲ適用ス

第十二條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十三條 自家用酒造者ノ家族、雇人、同居者ニシテ其ノ製造ニ關シ此税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ此税法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得

附 則

第十四條 此税法ハ明治廿九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十九年勅令第六十號ハ此税

法施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 沖繩縣、東京府管下、小笠原島、伊豆七島ニハ當分此税法ヲ施行セス

●酒造税法施行規則

(勅令第二百八十七號)

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ其ノ酒類製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ居所氏名ヲ記シ地方長官ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ商事會社ヲ組織シテ製造セムトスル者ハ合名會社合資會社ニ在テハ其ノ契約書謄本ヲ添ヘ社員ヨリ株式會社ニ在テハ發起認可書ノ謄本及定款謄本ヲ添ヘ發起人ヨリ申請スヘシ

酒類ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキ又ハ製造スヘキ酒類ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 酒類ハ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面並ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業着手前ニ地方長官ニ提出スヘシ  
前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ毎種類ノ見込造石數、製造ノ着手時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ地方長官ニ申告スヘシ  
前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條 酒類製造主ノ相續人ニ於テ其ノ製造事業ヲ繼續セムトスルトキハ其ノ旨地方長官ニ申出製造繼續ノ免許ヲ受クヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造税法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第七條 酒類ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條 清酒ノ造石數ヲ査定スルトキハ其ノ石數ヨリ百分ノ二ヲ滓引減量トシテ控除スヘシ但シ犯則ニ係ル清酒ハ滓引減量ヲ控除スルノ限ニ在ラス

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若クハ製造場外ヨリ移入シタル醪又ハ酒類ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十一條 酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノ時之ヲ検査スヘシ酒造用原料品トシテ酒類ヲ製造場内ニ移入シタルトキ亦同シ

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第十二條 酒造用原料品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ質入シ消費スルトキ若クハ公賣セラルトキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其ノ造石稅ヲ査定スヘシ但シ他ヨリ讓受シタルモノニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ着手前ニ其ノ數量時期等ヲ地方長官ニ申告スヘシ

第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪ヲ他人ニ讓渡シ若クハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第十七條 酒母醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若クハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第十八條 酒造税法第十二條ニ依リ未納造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ地方長官ニ申請スヘシ

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若クハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ腐敗ノ爲メ使用ノ途ナキヲ認ムルトキハ未納稅金ノ免除分ヲ爲



スヘシ

腐敗酒ヲ以テ蒸溜酒ノ製造用ニ供セムトスルモノハ未納税金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎又ハ酒精ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十條 地方長官酒類ノ造石數ヲ査定シタルトキハ其ノ際酒類製造王ヲシテ酒造税法第十三條ニ依リ保證物ヲ提供セシムヘシ但シ酒類製造主ハ見込造石數ニ依リ豫メ保證物ノ提供ヲ申請スルコトヲ得

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一 金錢

二 利付國債證券地方債證券

三 政府ノ保護又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券

四 土地

五 建物但シ火災保險ニ付シタルモノニ限ル

第二十二條 保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格土地ハ土地臺帳ニ登記シタル地價建物ハ被保險額ニ依ル

第二十三條 酒類製造主保證物ヲ提供スルトキハ金錢有價證券ハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ地方長官ニ提出シ土地建物ハ書入ノ登記ヲ爲スベシ第三者ニ於テ酒類製造主ノ爲メ

保證物ヲ提供スルトキ亦同シ

第二十四條 保證物トシテ提供シタル證券債券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若クハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ地方長官ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ

第二十五條 酒造税法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ質入シ、消費シ、又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 納稅保證人ハ地方長官ニ於テ納稅保證ニ堪アル資力アリト認ムル者ニ限ル  
第二十七條 地方長官ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘザルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條 地方長官ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條 酒類製造主ハ地方長官ニ申出保證物納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 酒類製造主税金ヲ納メザルトキハ納稅保證人ニ通知シ其ノ税金ヲ納メシメ又ハ滯納處分ノ手續ニ依リ其ノ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣スヘシ

一 稅納保證人税金ヲ完納セザルトキ又ハ保證物若クハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シ  
尙ホ税金ニ不足アルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後尙ホ税金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十二條 同一造製場内ニ於テ清酒並ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ醸造藏置ニ供  
スル場所ヲ酒類別ニ特定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 地方長官容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其ノ番號容量其ノ  
他必要ナル事項ヲ標記又ハ略記スルコトヲ得

第三十四條 收稅官吏ハ隨時酒類製造場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、  
帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ

第三十五條 收稅官吏ハ搾器械、蒸溜器械ノ使用停止中之ニ封緘ヲ附スベシ但シ修理其  
ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收稅官吏ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ原料用酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第三十六條 自己ノ所有ト否トヲ問ハズ容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ  
承認ヲ受クルニアラザレバ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ズ

第三十七條 酒造用原料品中酒母又ハ醪ノ檢査ハ熟成ノ時ニ於テ之ヲ行フ但シ其ノ熟成  
シタル酒母又ハ醪ヲ製造場内ニ移入シタルトキハ其ノ移入ノ時ニ於テスヘシ  
酒母醪以外ノ原料品ハ其ノ使用前便宜之ヲ檢査スヘシ其ノ檢査後ニアラザレバ酒類製  
造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三十八條 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ並ニ一仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シ  
テ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラザレバ彼此混淆スルコトヲ得ズ

第三十九條 酒類製造主左ニ掲グル事項ヲ行ハムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘ  
シ

一 熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込ムコト

二 熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲スコト

三 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換スルコト

四 仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和スルコト

五 原料用酒類ノ用途ヲ變更スルコト

六 藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲スコト

第四十條 酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨  
直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第四十一條 二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ  
受ク但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ズ

第四十二條 酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ  
酒類製造主ハ前項檢査後ニアラザレバ酒粕ヲ製造場外へ移出シ又ハ使用シ若クハ他ノ  
酒粕ト混合スルコトヲ得ズ

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受佛酒母及醪ノ仕込燻酎又ハ酒精ノ造

リ込、酒類ノ藏出、受拂増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

第四十四條 酒造税法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造税法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面目録ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ申請スヘシ  
第四十五條 酒造税法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ地方長官ニ免許ヲ申請スヘシ

●混成酒税法施行規則

(勅令第二百八十八號)

第一條 混成酒ヲ製造スル者ハ毎年十二月三十一日迄ニ其ノ翌年中ニ製造スヘキ混成酒ノ酒類、石數及製造方法ヲ地方長官ニ申告スヘシ

前項申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第二條 地方長官ハ混成酒製造高ノ多少ニ從ヒ毎月一回以上時日ヲ定メ豫メ其ノ期間ノ混成酒製造高ヲ申告セシムヘシ

第三條 混成酒ノ製造用ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ他ヨリ其ノ製造場ニ移入スルモノハ移入ノ時、其ノ製造高ニ在ルモノハ原料品ト定メタルトキ地方長官ニ申告スヘシ  
前項ノ申告アリタルトキハ收稅官吏ハ其ノ酒精又ハ飲料酒類ヲ檢査シ必要ト認ムヘキ

場合ニハ封緘ヲ附スルコトヲ得

第四條 混成酒ノ原料ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ前條ノ檢査ヲ受ケ且收稅官吏ノ承認ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 混成酒ヲ製造スル者酒造税法ノ酒類其ノ他ノ飲料酒類ヲ製造場ニ移入シタルトキハ混成酒製造用ニアラサルモ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第六條 酒造税法施行規則第一條第二條第三條第四條第六條第七條第八條第十九條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第二項第四十三條ノ規程ハ混成酒ヲ製造スル者ニモ適用ス

附則

第七條 明治二十九年十月一日以降同年十二月三十一日迄ノ間ニ混成酒製造セムトスル者ハ第一條ノ規程ニ準シ同年九月三十日迄ニ地方長官ニ申告スヘシ

●自家用酒税法施行規則

(勅令第二百八十九號)

第一條 自家用酒税法第一條ニ依リ自家用トシテ酒類ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所氏名及製造スヘキ酒類並ニ左ノ種別ヲ記シ地方長官ニ申請スヘシ

第一種 造石數二石未滿

第二種 造石數一石未滿

前項申請書ニハ其ノ製造時期及酒類ノ製造方法ニ關スル事項ヲ附記スヘシ附記事項ヲ變更シタルトキハ其ノ際申告スヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル酒類又ハ第一條ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ更ニ第一條ノ申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ但シ一酒造年度中ニ於テハ免許酒類又ハ種別ノ變更ヲ許可セス

第三條 自家用酒製造者其ノ居所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第四條 自家用酒ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨地方長官ニ申告シ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

自家用酒製造者死亡若シハ失踪シタルトキハ相續人又ハ其ノ他ノ者ヨリ其ノ旨地方長官ニ申告スヘシ

第五條 此ノ規則ニ依リ地方長官ニ提出スヘキ書類ハ所轄市町村長（特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區戸長又ハ之ニ準スヘキ者）ヲ經由スヘシ

### ● 暫廻營業稅則

#### 第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ暫廻醸造種類ヲ製造シテ營業セント欲スルモノハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

暫廻營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十一日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣ノ見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

管廻及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ暫廻賣捌所ト書シタル標札ハ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

#### 第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス醫麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 醫麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醫麴受酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類<sup>醫麴</sup>ヲ製造スルヲ許サス

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣却キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條 醫麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

●醬油稅則

第一條 醬油<sup>溜ヲ併</sup>製造ノ營業者ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但製造人十六歳未満ノ幼年者及瀧瀧白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅 醬油諸味一石ニ付 金壹圓

溜ハ製成一石ニ付 金壹圓

第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ  
第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテノ間查定濟石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間查定濟石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間查定濟石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ查定ヲ受クヘシ

造石數查定済ノ醬油ト查定未済ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ查定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際查定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ查定ヲ受ク其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ查定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ查定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條 免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等己ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出ヌル後ニ非サレハ造石稅查定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石稅查定未済ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ查定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避ヘカラサル事故ニ因

リ廢業ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ捺印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ證票ヲ携帯スヘシ

第十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隠蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及通稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消棄シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歳未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡癩ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但

此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條 此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ツヘシ

●醬油稅則施行細則

第一條 稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラズ都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之レニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第二條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願書ヲ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條 免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管租稅檢査員派出所ニ届出ツヘシ

第四條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ増減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管租稅檢査派出所ニ届出ツヘシ

第五條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租稅檢査派出所ニ届出ツヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ

新タニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ  
第六條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ税則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第七條 醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先ヲ帖簿ニ記載シ置クヘシ

第八條 醬油製造所ノ容器ハ使用以前之ヲ檢定スヘシ  
前項ノ容器ヲ檢定シタルトキハ之ニ其番號容量其他必要ナル事項ヲ標記又ハ略記スルコトヲ得

第九條 刪除

第十條 醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第十一條 改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日内ニ鑑札ノ再渡又ハ替換ヲ請フヘシ  
一 代替替換ハ 六十日間  
二 其他ノ替換再渡ハ 十日間

第十二條 製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ受ク二十日以内之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ替換ヲ請フヘシ

第十三條 税則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定済ニ係ル造石税ハ税則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 税則第十一條ニ依リ造石税ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢業石數等ヲ詳記シ所管租税檢査員派出所ニ申出ヘシ前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石税免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 造石數査定未済ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租税檢査派出所ニ届出ヘシ

第十六條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ  
醬油製造原品買入帳 醬油麵製造帳 醬油仕込帳 醬油賣揚帳

第十七條 税則及ヒ此細則ニ掲グル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條 税則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名、名稱、石數、箇數、輸入地名、積込箱名等ヲ記シタル書面ヲ税關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ受クヘシ

第十九條 造石税ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ税關ニ申出ヘシ

第二十條 輸出醬油石税下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ依リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條 税則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名、石數箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ税關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十二條 税則及此細則ニ於テ石數ノ合位税金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス



第二十三條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セザルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス  
 第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ  
 貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第  
 十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
 第二十五條 此細則ニ關スル貼簿記載方其他舊式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

●煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス  
 煙草製造人  
 葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者  
 煙草仲買人  
 葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者  
 煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ  
 但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ  
 證約スル爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス  
 證約金 營業場一箇所毎ニ 五十圓以上  
五百圓以下

煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金  
 ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管  
 廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ  
 煙草營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢  
 煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第六條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第七條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第八條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第九條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入稅港稅關ノ陸揚稅狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之レヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人ニ又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡讓渡スコトヲ得

第十一條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ受クルハ此限ニアラス

第十二條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十三條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十四條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲シタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

煙草耕作人ニ限り自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十五條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十六條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 何人コトモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第十八條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第二十一條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第三條又ハ第四條第二項ヲ犯シタル者亦同シ

第二十二條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十三條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十四條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十五條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサルモノニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條 第十六條第一項第二十條ニ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罪金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十七條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十八條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十九條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ虎罰ス

煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡癩ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十一條 煙草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十二條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

附則

第三十三條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十四條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘス

第三十五條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十六條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

附則

此法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

●煙草稅則施行細則

第一條 稅則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第二條 稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人、器械ノ員數及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數坪數ニ拘ハラズ證約金額ヲ増減スルコトアルヘシ證約ノ手續及ヒ證約狀ノ様式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條 煙草製造營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人、弟子、職工ノ數(職工ハ其住所トモ)ヲ其府縣ノ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但異動ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第四條 稅則第二條但書及第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ掲クル者ハ後見人ト爲ルコトヲ得ス  
一 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者  
一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第六條 煙草營業者其營業場外ニ住居スルトキハ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理ハタルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏

名ハ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第七條 稅則第四條ノ仕入出賣ヲ爲スコトヲ得ル家屬雇人ハ營業者ト同居常住ヲ爲ス者ニ限ル

第八條 煙草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

- 黑色 一枚 二厘 淡赭色 一枚 三厘 黃色 一枚 四厘 赭色 一枚
- 六厘 萌黃色 一枚 八厘 淡青色 一枚 壹錢 茶褐色 一枚 壹錢貳厘
- 淡紅色 一枚 壹錢六厘 桔梗色 一枚 壹錢八厘 橙黃色 一枚 貳錢
- 老綠色 一枚 貳錢四厘 濃青色 一枚 三錢 淡黑色 一枚 三錢貳厘
- 黃綠色 一枚 四錢 嬌栗色 一枚 四錢八厘 紫色 一枚 六錢 赤色 一枚
- 赤色 一枚 八錢

第九條 製造煙草ノ包裹每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

剝煙草每一包(函)ニ付	百匁入	二百本本
	八十匁入	百本本
	六十匁入	五十本本
	五十匁入	二十本本
	四十匁入	十本本
	三十匁入	六本本
	二十匁入	
	十五匁入	
	十匁入	
	五匁入	
卷煙草每一包(函)ニ付		

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り又ハ紙包入りトシ、其包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固着シテ貼用印紙ヲ破毀セザレハ煙草ヲ取り出スヲ得サル様ニ密封スヘシ  
製造煙草每箇ノ<sup>量目</sup>本數、定價、氏名、住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裹ノ表面ニ記入スヘシ

煙草營業人ニ於テ所持ノ製造煙草ヲ定價以上ニ賣捌カントスルトキハ原製造人ニ托シ定價ヲ改メ改定定價ニ相當スル印紙ヲ増貼セシムヘシ

第十一條 煙草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得

第十二條 製造煙草每一箇ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルトキハ二厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス

第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條 煙草營業者ハ既ニ用ヒタル煙草印紙又ハ其包裹ヲ所持スルコトヲ得ス又何人ニテモ之ヲ賣買シ若シハ讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 煙草營業者ハ商品見本トシテ每種刻煙草五枚紙卷煙草十本葉卷煙草五本ニ超一ハサル包裹ヲ切披キ之ヲ店頭ニ陳列シ又ハ出賣先ニ携帶スルコトヲ得  
〔二十四年三月五日  
大藏省令第二號ヲ以テ本條改正〕

第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ形紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十七條 煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ煙草稅則ニ從フヘシ  
第十八條 煙草製造人、仲買人ニシテ卷煙草ヲ買入レ又ハ預リタルトキハ壹俵、壹カマス<sup>買入レタル番號</sup>又ハ壹束毎ニ其葉ノ種類、量目、及ヒ<sup>買入レタル番號</sup>、年月日、<sup>賣主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ</sup>

第十九條 煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルニトヲ得ス但葉取り葉拵又ハ賃卷ノ爲ニ煙草職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條 煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條 煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 葉煙草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷<sup>送主ノ氏名、住所</sup>
- 一 製造煙草ノ種類、包裹ノ區別、箇數、荷<sup>送主ノ氏名、住所</sup>

第二十二條 煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

一 印紙賣渡ノ年月日 一 印紙ノ種類枚數 一 賣捌人ノ氏名住所

第二十三條 輸出製造煙草ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類、箇數、定價、印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦全シ

第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム  
第二十五條 送狀ヲ添付セサル煙草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアル  
ハシ

第二十六條 代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキ  
ハ管廳ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札  
料ヲ納ムヘシ

一 代替書換ハ六十日間 一 其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 煙草稅則及此規則ニ掲クル帳簿書類ハ三箇年保存スヘシ

第二十八條 〔二十四年四月大藏省令第一七號ヲ以テ本條ヲ刪除ス〕

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ貳圓以  
上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十八條第二十一條第二十二  
條第二十六條第二十七條第三十一條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ料

料ニ處ス

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業者包裹ヲ施シ又  
ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及第  
三條ノ届出ヲ爲スヘシ

◎煙草稅則取扱方要領

第一款 吸煙ノ用ニ供スル煙草類(混合製ノ諸品トモ)ハ總テ稅則ニ照シテ之ヲ取扱フヘ  
キモノトス

第二款 左ノ事項ハ從來各府縣ニ於テ經驗セル取締規則其他ノ慣例ヲ參酌シ改正稅則ノ  
精神ニ基キ適當ノ取締ヲ施スヘキモノトス

一 葉煙草ノ取締即チ檢證封印等ノ方法ヲ施スコト

〔二十四年四月大藏省訓令第三十九號ヲ以テ本項ヲ刪除ス〕

一 質抵當ニ係ル煙草ノ受授及廢業者所持ノ煙草賣捌方ニ就テ取締ヲ施スコト

一 煙草製造ニ關スル場所ニ取締ヲ施スコト

一 煙草製造器械ノ取締即烙印等ノ方法ヲ施スコト

一 內國產製ニ非ラサル煙草ノ取引買賣貸借等ニ就テ取締方法ヲ施スコト

第三款 稅則第四條仕入出賣ノ免許鑑札ニハ各其受免許人ノ屬籍、氏名、年齢、免許ノ番  
號及ヒ其年月日ヲ記載ス可シ

第四款 製造煙草ノ包裹ニ各種ノ商標、彩紋、裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任ヘ但豫メ  
其見本ヲ租稅檢査員派出所ニ届出置カシム可シ

第五款 天災其他抗拒スヘカサル事故ニ罹リ煙草營業者所持ノ煙草包裹及ヒ其貼用印  
紙毀損又ハ汚染セル場合ニ於テハ該當官吏其事實ヲ審明シタル上特ニ其印紙ノ交換ヲ

辭スヘシ但交換ノ手續ハ別ニ告示スヘシ

◎煙草稅則第三條ノ證約狀調製手續

本年四月勅令第二十六號煙草稅則第三條ニ據リテ管轄ニ差出ス證約狀ノ調製左ノ如シ

◎證約狀調製手續

第一項 證約狀ハ左ノ様式ニ據リテ調製シ煙草製造營業出願ノ際願書ト共ニ差出スヘキモノトス

第二項 證約金額ハ管轄ノ指示スル所ニ從ヒテ掲記スルモノトス

第三項 證約狀ノ保證人ハ最寄郡區内ニ住シ正實ニシテ同府縣内ニ於テ所得稅ヲ納ムル資産アル者二名以上ヲ要ス

證約狀

一金何十圓也

二私儀煙草製造營業御許可相成候上ハ左ノ事項ヲ確守スル爲メ前項ノ通證約金額ヲ掲記シ保證人ト共ニ署名調印ノ上證約ヲ爲スト如件

第一款 營業上ニ關スル法律規則ヲ遵守シ正實ニ營業ヲ爲ス事

第二款 此證約ニ違背シ前記證約金額ノ一部又ハ其全部ヲ徵收セラル、トキハ徵收額違ノ日ヨリ五日以内ニ無相違完納スヘキ事

第三款 前記期限内ニ證約金ヲ上納セサルトキハ連署ノ保證人ニ於テ直ニ本人ニ代リ辨納可致事

右之通相違無之候也

年月日

何府何區何村

本人 何 某印

何府何區何村

保證人 何 某印

何府何區何村

保證人 何 某印

何府知事氏名顯

◎煙草印紙交換手續

第一條 煙草營業者天災其他抗拒スヘカヲサル事變ニ罹リ其所持スル製造煙草ノ包裹若クハ其包裹ニ貼用シタル印紙ヲ毀損若クハ汚染シタルトキハ其損失ニ係ル印紙ノ價格一口壹圓以上ノ者ニ限リ新印紙ト交換ヲ請求スルコトヲ得

第二條 印紙交換ヲ請求セントスル煙草營業者ハ其天災其他抗拒スヘカヲサル事變ニ罹リタル年月日場所實況及損失ニ係ル印紙ノ價格ヲ記載シ所在租稅檢査員派出所ニ差出シ其審明ヲ受クヘシ

第三條 租稅檢査員其事實ヲ審明シ印紙交換ヲ許可スヘキモノト認ルトキハ損失ニ係ル

印紙ヲ毀却シ其煙草ニ封印ヲ施シ煙草營業者ヲシテ其交換ヲ要スル印紙ノ種類枚數仕譯書ヲ調製セシメ其餘白ニ審明ヲ證シ年月日官氏名ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ煙草營業者ニ下戻スヘシ

第四條 煙草營業者ハ前條印紙種類枚數仕譯書ヲ所在郡區役所ニ差出シ交換ヲ請求スヘシ

第五條 印紙交換ノ價格割合ハ左ノ如シ

損失ニ係ル印紙ノ價格 下付スヘキ新印紙ノ價格

一貳拾圓未滿壹圓ニ付 八拾錢 一貳拾圓以上壹圓ニ付 八拾五錢

第六條 郡區役所ニ於テハ第三條ノ審明書ヲ調査シ前條ノ割合ニ據リ新印紙ヲ下付スヘシ

第七條 煙草營業者新印紙ヲ請取リタルトキハ租稅檢査員派出所ニ申出第三條煙草封印ノ解除ヲ請ヒ包裹ヲ改施シ印紙ヲ貼用シ更ニ檢査ヲ受クヘシ

◎煙草耕作人届出及取纏方

煙草耕作人ト非耕作人トノ區別ヲ明カニスルハ稅則上緊要ノ事件ナルカ故ニ右耕作人ノ届出ニ各地方收稅部出張所ニ於テ之ヲ取纏ノ稅明執行上ノ要用ニ供スヘシ尤右届出取纏メ方ハ各地ノ事宜ニ應シ簡便ヲ量リ之ヲ施行スル儀ト心得ヘシ

◎葉煙草專賣法

第一條 政府ハ葉煙草ノ專賣權ヲ有ス

第二條 葉煙草ハ政府之ヲ收納シ總テ定價ヲ以テ之ヲ賣渡ス

第三條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ乾燥ノ後ヲ總テ其葉煙草ヲ政府ニ納付スヘシ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス

第四條 葉煙草ヲ耕作シタル者葉煙草ヲ納付スル時ハ政府ハ之ニ對シ賠償金ヲ交附スヘシ 葉煙草ノ賠償金ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ其品位級級ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑セシム若シ此鑑定ニ不服アルトキハ更ニ鑑定ヲ求ムルヲ得

第五條 葉煙草ヲ耕作セントスル者ハ毎年四月三十日迄ニ政府ニ其段別ヲ届出ヘシ

第六條 葉煙草ハ政府ニ届出テタル土地ニ非サレハ耕作スルヲ得ス

第七條 葉煙草耕作者ノ變更シタル時ハ其耕作ヲ繼承シタル者ヨリ其旨政府ニ届出ヘシ

第八條 煙草製造ヲ業トスル者及葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ葉煙草ヲ耕作スルヲ得ス

第九條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草收穫ノ前及葉煙草乾燥ヲ了リタル後政府ニ届出テ

檢査ヲ受クヘシ

第十條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ノ乾燥ヲ了リタル後翌年三月三十一日迄ニ政府ノ指定シタル場所ニ之ヲ納付スヘシ此ノ期限ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏セントスルトキハ政府

ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ヲ買受クルヲ得ス又自己ノ耕作セサル葉煙草



ヲ貯藏スルヲ得ス但シ當該官吏ノ承認ヲ受ケ標本トシテ買受クルハ此限ニアラス

第十二條 輸出ニ供スル葉煙草ハ政府ノ認可ヲ受クル時ハ之ヲ政府ニ納付セスシテ他ニ賣渡スヲ得

第十三條 前條ノ葉煙草ハ政府ノ保管ニ付スヘシ

第十四條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ其保管證ヲ以テ賣買スルヲ得

第十五條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ保管後一箇年内ニ輸出セサルトキハ政府ハ之ヲ收納シ第四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘシ

第十六條 政府ニ於テ保管シタル葉煙草ハ輸出ノ際之ヲ輸出者ニ交付スヘシ

第十七條 保管若クハ運搬ノ爲ニ生シタル費用ハ保管證所有者ノ負擔トス

第十八條 政府ハ何人ノ所屬ヲ問ハス葉煙草耕作地及貯藏所其他所在ノ場所ヲ検査スルヲアルヘシ此場合ニ於テ當該官吏ハ葉煙草所在場所又ハ葉煙草ノ所在ト認ムル場所ニ立入り又ハ監督上必要ノ所分ヲ爲スヲ得其運送中ニアルモノハ其所在ニ就キ之ヲ検査ヲ爲スヲ得

第十九條 政府ハ各地方便宜ノ地ニ葉煙草取扱所ヲ設テ葉煙草ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム

第二十條 耕作ノ届出ヲ爲サスシテ葉煙草ヲ耕作シタル者又ハ届出ヲ爲サル土地ニ葉煙草ヲ耕作シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其葉煙草ヲ收没ス

第二十一條 葉煙草ヲ耕作スル者政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡又ハ消費シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキハ何人ノ所

有テ問ハス政府ハ之ヲ收納シ第四條ニ準シテ其賠償金ヲ交付スヘシ

第二十二條 葉煙草ヲ耕作スル者葉煙草ヲ買受ケ又ハ自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏シ又ハ政府ノ認許ヲ受ケスシテ翌年三月三十一日ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキ其收納及賠償金ノ交付ハ前條但書ヲ適用ス

第二十三條 葉煙草耕作者變更ノトキ其繼承ノ届出ヲ爲サル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十四條 葉煙草ノ收穫ヲ始ムル前又ハ葉煙草ノ乾燥ヲ了リタル後之カ届出ヲ爲サル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 政府ニ對シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ事實ノ申告ヲ詐リ若クハ之ヲ怠リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 葉煙草ノ検査ニ際シ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル第廿七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第廿八條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ其代理人、家族、同居者、雇人ニシテ其業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處分ヲ免カル、コトヲ得ス

- 第廿九條 本法ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス
- 第三十條 遠隔ノ島嶼ニシテ内地ト一般ノ狀勢ヲ異ニスルモノアルトキハ其地方ニ對シ勅令ヲ以テ本法ヲ施行セサルコトヲ指定スルコトヲ得
- 第卅一條 明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス但シ煙草製造營業者ニ於テ本法施行前ヨリ持越シタル葉煙草ヲ以テ製造シタル煙草ニ關シテハ仍明治廿一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用ス
- 第卅二條 本法施行ノ際煙草仲買人又ハ葉煙草耕作者ノ所持スル葉煙草ハ政府ニ納付スヘシ但シ納付ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●葉煙草專賣資金會計法

- 第一條 葉煙草專賣法ニ依リ政府ニ於テ收納スル葉煙草賠償ノ爲メ葉煙草專賣資金ヲ置キ特別會計ヲ設置ス
- 第二條 每會計年度ニ於テ其歲入ノ葉煙草賠償金ニ超過スルモノハ同年度一般ノ歲入ニ編入シ資金ハ翌年度ニ繰越スヘシ
- 第三條 政府ハ毎年葉煙草專賣資金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第四條 葉煙草專賣資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 此法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

●煙草製造營業者煙草稅現金收納ニ關スル法律

- 第一條 明治二十九年法律第三十五號葉煙草專賣法第三十一條但書ノ場合ニ於テ煙草製造業者ハ煙草製造高ヲ豫定シ之ニ貼用スヘキ印紙ニ相當スル税金ヲ納付スルコトヲ得其ノ製造高及定價計算方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル
- 前項ノ納金額ハ政府ノ認可ヲ得テ之ヲ分納スルコトヲ得但明治三十一年六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス
- 前二項ニ依レル納稅濟ノ煙草ニ對シテハ明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用セ

附則

- 第二條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

## ●葉煙草再鑑定規程

(大藏省令第十六號)

- 第一條 葉煙草專賣法第四條第二項ニ依リ葉煙草ノ品位等級ノ再鑑定ヲ求ムルモノハ鑑定不服ノ要領ヲ具シ所管葉煙草專賣所ニ申出ヘシ
- 第二條 葉煙草專賣所ハ前條再鑑定ノ申出アリタルトキハ二名以上ノ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシムヘシ
- 前項ノ鑑定人ハ少クモ其ノ半數ヲ葉煙草專賣所員以外ヨリ選定スルモノトス
- 第三條 鑑定決定シタルトキハ其ノ決定書ヲ作り再鑑定申出人ニ交付スヘシ

## ●法律第四十號ノ施行ニ關ルス規程

(勅令第三百四十號)

- 第一條 明治三十年法律第四十號ニ依リ煙草稅ヲ現金ニテ納付セントスル者ハ葉煙草ノ量目及豫定製造量目、豫定定價、豫定稅額ヲ記載シタル申請書ヲ明治三十一年一月三十一日限リ所轄稅務署ニ提出スヘシ其ノ稅金ヲ分納セントスルトキハ分納スヘキ時期及各期ノ納金額ヲ附記スヘシ
- 第二條 豫定製造量目ハ明治三十年六月ヨリ十二月ニ至ル各自ノ製造歩合ニ依リ之ヲ定ム
- 豫定定價ハ明治三十年六月ヨリ十二月ニ至ル各自ノ製造總量目ニ對スル定價ノ歩合ニ依リ之ヲ定ム
- 煙草製造業ニシテ前二項ノ期間ニ製造ヲ爲サル者ノ豫定製造量目及豫定定價ハ同期間ニ於ケル所轄稅務署管内ノ煙草製造業者ノ平均歩合ニ依リ之ヲ定ム

●葉煙草仲買人及葉煙草耕作者葉煙草納付規程

- 第一條 煙草仲買人又ハ葉煙草耕作者ニシテ葉煙草專賣法施行ノ際葉煙草ヲ所持スル者ハ左ノ期限ニ從ヒ所管葉煙草專賣所ニ納付スヘシ但葉煙草耕作者ニシテ此ノ期限ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏セントスルトキハ所管葉煙草專賣所ノ認許ヲ受クヘシ
  - 一 煙草仲買人 明治三十一年一月三十一日限
  - 二 葉煙草耕作者 明治三十一年三月三十一日限
- 第二條 煙草仲買人及葉煙草耕作者ヨリ納付スル葉煙草ニ對シテハ大藏大臣定ムル所ノ賠償金ヲ交付ス
- 第三條 煙草仲買人及葉煙草耕作者納付葉煙草ノ再鑑定ヲ求ムルトキハ明治三十年大藏省令第十六號ヲ準用ス
- 第四條 葉煙草耕作者ヨリ納付スヘキ葉煙草ニ關シテハ本令ニ規定スルモノ、外葉煙草專賣ニ關スル一般ノ規程ヲ準用ス

●葉煙草專賣法施行細則

- 第一條 葉煙草專賣法第五條ノ届出ヲ爲ス者ハ第一號ノ書式ニ準シタル書面ヲ所管葉煙草專賣所ニ差出スヘシ
- 第二條 枯葉蝕損其他不熟葉等ニシテ政府ニ納付スルコト能ハサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ廢棄ノ處分ヲ爲スヘシ
- 第三條 葉煙草耕作者生葉ノ收穫ヲ了シタルトキハ直チニ其幹根ヲ拔除スヘシ
- 第四條 葉煙草ハ總テ左ノ葉分ニ據リ調理スヘシ但土地ノ狀況ニ依リ當該官吏ノ承認ヲ得テ葉分ヲ増加スルコトヲ得
  - 一 土葉 最下ニアル三四枚
  - 二 中葉 土葉ノ上本葉マテ
  - 三 本葉 中葉ノ上天葉マテ
  - 四 天葉 最上ニアル三四枚
- 第五條 葉煙草ニシテ前項ノ葉分ニ據リ難キモノハ雜葉トシテ之レヲ調理スヘシ
- 第六條 脚干ノモノハ各自同尺ノ繩ヲ用キ種類葉分毎ニ區分スヘシ
- 第七條 幹干ノモノハ葉ノ採收後種類葉分毎ニ各自一定ノ把ト爲スヘシ
- 第八條 葉煙草ハ其種類及葉分ニ據リ區別シ其品類、葉並同等ノモノヲ取揃ヘ成ルヘク一定ノ枚數ヲ以テ一把トシ輕量、管、紙等ヲ以テ結束シ凡ソ六貫匁ヲ以テ一包トシ每包ニ種類、葉分、産地、姓名ヲ標記シ第二號書式ノ納付書ヲ添ヘ所管葉煙草專賣所

ニ納付スヘシ但本文ノ量目ニ滿タサルモノハ別ニ結束シ納付スヘシ  
包裝ハ蓆吳坐或ハ鹹ノ類ヲ用キ葉先ヲ内ニシ十字形ニ積重テ遠路ノ運搬ニ差支ナキ様  
堅固ニ結束スヘシ

第七條 左ニ掲クル如キ調理ノ不充分ナル葉煙草ハ耕作者ニ於テ相當ノ調理ヲ施シタル  
後ニアラサレハ納付スルコトヲ得ス

- 一 過度ノ濕氣ヲ含ムモノ
- 一 幹子付又ハ鍵付ト稱シ其幹ノ部分ヲ附着シアルモノ
- 一 種類、葉分、葉並、包裝ノ亂雜ナルモノ

第八條 葉煙草專賣法第十條ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ其旨所管葉煙草專賣所ニ申出テ  
認許ヲ受クヘシ但貯藏期限四箇月以上ニ渉ルモノハ葉煙草ノ種類、葉分毎ニ量目ヲ記  
載シタル書面ヲ差出スヘシ

第九條 葉煙草耕作者葉煙草ヲ輸出ニ供セムトスルトキハ第三號書式ノ書面ニ現品ヲ添  
ヘ所管葉煙草專賣所ニ差出スヘシ

第十條 前條ニ據リ葉煙草專賣所ニ保管シタル葉煙草ニ調理ヲ加ヘムトスルトキハ調理  
ノ理由場所及日時等ヲ詳記シタル書面ニ保管證ヲ添ヘ所管葉煙草專賣所ニハ差出シ承  
認ヲ受クヘシ

第十一條 前條葉煙草ノ調理ヲ了シタルトキハ摺屑、葉莖等葉煙草ヨリ出テタル一切ノ  
屑ヲ葉煙草ト共ニ所管葉煙草專賣所ニ提供シ其處分ヲ受クヘシ

第十二條 保管葉煙草ヲ輸出セムトスルトキハ其輸出港ヲ指定シテ所管葉煙草專賣所ニ  
申出テ廻送ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ葉煙草輸出港ニ到達シタルトキハ葉煙草專賣法第十七條ノ費用ヲ納付シテ保管  
證ヲ差出シ葉煙草ノ交付ヲ請フヘシ

第十三條 保管證ヲ毀損汚染シタル者ハ所管葉煙草專賣所ニ申出デ保管證ノ交換ヲ求ム  
ルコト得

第十四條 保管證ヲ亡失シタル者ハ葉煙草ノ價格ニ相當スル金錢又ハ同價證券ヲ擔保ト  
シテ提供シ又ハ葉煙草專賣所ニ於テ相當ト認ムル資産ヲ有スル者ニ名以上ノ保證人ヲ  
定メ損害ヲ爲ストキハ保管葉煙草ノ交付ヲ爲スヘシ

第十五條 收獲ノ葉煙草若クハ認許ヲ受ケタル貯藏煙草ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ詳  
記シ直チニ所管葉煙草專賣所ニ届出ヘシ

第十六條 煙草ノ賣渡ヲ請フ者ハ葉煙草ノ名稱、品類、葉分、數量ヲ葉煙草專賣所ニ申  
出ヘシ

第十七條 葉煙草ハ包裝ノ儘賣渡ヲナシ分割スルコトナシ但標本トシテ賣渡ヲ爲スモノ  
ハ此限ニアラス

第十八條 葉煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ直チニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ

第十九條 葉煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者葉煙草專賣所ノ指定スル金額又ハ之ニ相當スル國  
債證券ヲ擔保トスルトキハ代金ノ延納ヲ請フコトヲ得

第二十條 葉煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者賣渡契約ノ日ヨリ三日以内ニ現品ヲ引取ラサルト  
キハ相當ノ保管料ヲ徴收ス但契約ヲ解除シタルトキハ此限ニアラス

第一號書式

葉煙草耕作届

一 苗床 (實蒔) (買入苗) 何歩 所在地何々

二 耕作地

何町 (村) 大字、字、地番、何段歩

此植付見込株數何本

何町 (村) 大字、字、地番、何段歩

此植付見込株數何本

何町 (村) 大字、字、地番、何段歩

此植付見込株數何本

計 何段歩

此植付見込株數何本

(接續地ハ一項ニ合記スルモ妨ケナシ)

一 煙草ノ種名 何々

一 貯藏ノ場所 一 居室構内又ハ何々

右及御届候也

年月日

住所 姓名印

何葉煙草專賣所宛

第二號書式

葉煙草納付書

二 何種何葉 (葉分毎ノ名) (稱ヲ云フ)

何包此量目何貫匁

右納付候也

年月日

住所 姓名印

代理人ヲ以テスルモノハ  
其姓名ヲモ記載スヘシ

何葉煙草專賣所宛

第三號書式輸出葉煙草保管願

一 何種何葉 (葉分毎ノ名) (稱ヲ云フ)

何包此量目何貫匁

右輸出ニ供シ度候間御保管相成度此段相願候也

年月日

住所 姓名印

何葉煙草專賣所宛

# ●國稅徵收法

## 第一章 總 則

- 第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノ、外總テ此ノ法律ニ依ル
- 第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ充ツモノトス
- 第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス
- 第四條 納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ
- 納稅人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費ニ對シテ先取セサルモノトス

## 第二章 徵 收

- 第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス
- 前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町内ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲サ、ルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

## 第三章 滯納處分

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料ヲ徵收ス

第十條 滯納者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ督促手数料及税金ヲ完納セサルトキハ其ノ財産ヲ差押フヘシ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却決行ノ五日前マテニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ル、爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具
  - 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
  - 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
  - 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地
  - 五 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
  - 六 勳章其ノ他名譽ノ章票
  - 七 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
  - 八 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ
- 第十七條 左ニ掲グル物件ハ他ニ滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス
- 一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料、及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラル、コトナシ

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ開鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第二十一條 滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

第二十二條 依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十三條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員、市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員、若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十四條 通貨、地金銀、有價證券ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ封印シテ其ノ他ノ市町村長、市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長ニ保管セシムヘシ

前項ニ掲ケサル物件ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏封印シテ之ヲ保管スヘシ但シ不動産又ハ運搬ヲ爲スニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ其ノ保管ヲ滯納者又ハ第三者ニ命スルコトヲ得



第二十三條 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收税官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收税官吏ニ對シテ滞納處分及税金額ヲ限トシ自  
己ノ債務ヲ支拂フノ義務ヲ有ス其ノ義務ノ消滅セサル前ニ滞納者ニ對シテ爲シタル支  
拂ハ無効トス

第二十四條 差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定  
ム

公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價額見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格  
ヲ以テ政府ニ買上ルコトアヘシ

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨價契約ヲ以テ  
之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接ト  
ヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滞納處分費ハ督促手数料、財産ノ差押、保管、運搬及公賣ニ關スル費用、  
通信費及訴訟費用トス

第二十八條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分及税金ニ充テ仍殘餘アルトキ  
ハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件買入書入ト爲シタルモノナルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ處分費及税金ヲ  
控除シ次ニ其ノ負債金額ニ充ルマテ之ヲ債主ニ交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還付ス

ハシ但第三條ニ掲ケタル買入書入ノ物件ニ關シニハ其代金ヨリ先ツ滞納處分費ヲ徴シ  
次ニ其ノ負債金額ニ充ツルマテ之ヲ債主ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ仍殘餘アレハ之ヲ滞  
納者ニ還付スヘシ

第二十九條 會社ニ對シ滞納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ滞納處分費及稅  
金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住居又ハ事務所ニ送達スルモノトス  
名宛人ノ住居又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居若ハ事務所不明ナ  
ルトキハ通知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過クルトキハ其ノ書類ノ送達アリタルモノト看做  
ス

第三十一條 直接國稅滞納者ノ納稅義務ハ滞納處分ノ結了ヲ以テ終ル滞納處分ノ執行ヲ  
止メタルトキ亦同シ

間接國稅ニ付テハ滞納處分結了スルモ滞納處分費及税金ノ完納ニ至ラサルトキハ納期  
限後一箇年間ハ隨時其ノ不足額ヲ徴收ス滞納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

第四章 罰則

第三十二條 滞納者又ハ滞納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契  
約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同  
シ

情ヲ知、前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ處爲ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス  
前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ニテ施行セス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體  
ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水產物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法同年法、律第三十二號國稅滯納處分法  
及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●葉煙草收納賣渡及保管ニ關スル取扱方(大藏省訓令第六十三號)

第一條 葉煙草ヲ收納スルトキハ納付者又ハ代理人ヲ立會シメ其現品ヲ調査秤量シテ  
之ヲ收納シ第一號書式ノ領收證書ヲ交付スヘシ其ノ品位等級ノ鑑定ヲ了シタルトキハ  
領收證書ニ其等級價額ヲ記入スヘシ

第二條 賣渡ニ供スヘキ葉煙草ハ一包凡ソ六貫匁ヲ以テ常例トス各地方需要ノ狀況ニ依  
リ六貫匁以下ノ小包ト爲スモ妨ケナシ

第三條 葉煙草賣渡ノ請求アルトキハ代金納付済又ハ代金延納許可済ノ後現品ヲ引渡シ  
其領收證書ヲ徴スヘシ

第四條 葉煙草專賣所長ハ葉煙草代價ノ延期ヲ許ストキハ代價ノ總額以內ニ於テ適宜擔  
保ノ金額ヲ指定スヘシ常時賣渡ヲ請フ者ニ付テハ其ノ請求ニ依リ擔保ヲ据置ト爲スコ  
トヲ得

第五條 葉煙草賣渡代金ノ延納期限ハ六箇月以內ニ於テ便宜之ヲ定ムヘシ

第六條 品位等級再鑑定ノ請求アリタル葉煙草ハ再鑑定ノ決定マテ之ヲ賣渡スコトヲ得  
ス

第七條 輸出ニ供スル葉煙草保管ノ際ハ所有者又ハ其代理人ヲ立會ハシメ現品ヲ調査秤  
量シテ第二號書式ノ保管證ヲ交付スヘシ

第八條 保管葉煙草ハ政府所有ノ葉煙草ト同一ノ注意ヲ以テ之ヲ管理スヘシ

第九條 保管葉煙草ニ異狀アリテ改裝ノ必要アリト認ムルトキハ假リニ應急ノ調理ヲ爲

シ所有者ノ調理ヲ待ツヘシ

第十條 保管葉煙草ノ調理ヲ承認シタル場合ニ於テ其ノ包裝ヲ改メタルトキハ更ニ保管證ヲ交付スヘシ

第十一條 保管葉煙草ノ調理ニ依リ生シタル屑葉等ヲ提供シタルトキハ收納ニ適スルモノハ之ヲ納付セシメ其ノ他ハ所有者ニ還付シ廢棄セシムヘシ

第十二條 保管葉煙草所有者ノ請求ニ依リ其葉煙草ヲ廻送シタルトキハ葉煙草專賣所ハ其ノ保管及運搬ニ要シタル費用並ニ保管證記載ノ要件ヲ廻送先葉煙草專賣所ニ通知スヘシ

第十三條 輸出ノ爲メ保管葉煙草ノ交付ヲ請フトキハ葉煙草專賣所ハ保管運搬等ニ關スル費用ヲ計算シ其ノ納入ヲ告知シ現金領收濟ノ上保管證引換ニ現品ヲ交付スヘシ

第十四條 保管葉煙草ノ收納ヲ請フ者アルトキハ新ニ葉煙草ヲ納付スルモノトシ其ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十五條 葉煙草專賣法第十五條ニ依リ保管葉煙草ヲ收納シタルトキハ其ノ等級及賠償價額ヲ所有者ニ通知スヘシ所有者ノ所在分明ナラサルトキハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第十六條 第十四條及第十五條ノ場合ニ於テハ保管證ヲ返納セシメ保管運搬等ニ關スル費用ヲ納付セシムヘシ

第十七條 葉煙草專賣法施行細則第十四條及第十九條ニ依リ擔保トシテ提供セシムヘキ

國債證券ハ市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ニ依リ其ノ擔保價額ヲ計算スヘシ

第十八條 葉煙草專賣所長ハ左ノ帳簿ヲ設ケ葉煙草ノ收納賣渡及保管ノ事項ヲ整理スヘシ

一 葉煙草專賣資金會計總括簿 第三號書式

二 葉煙草受拂簿 第四號書式

三 葉煙草保管證元帳 第五號書式

四 保管葉煙草受拂簿 第六號書式

前項帳簿ノ外必要ナル補助簿ハ適宜之ヲ設クヘシ

第十九條 葉煙草專賣支所ニ出張シ葉煙草ノ收納及賣渡ヲ爲ストキハ適宜ノ補助簿ニ依リ整理シ每回出張中取扱ニ係ル合計ヲ以テ第十八條ノ帳簿ニ登記スヘシ

第二十條 葉煙草專賣所長ハ第十八條ノ帳簿ノ結果ニ依リ毎月第七號書式ノ葉煙草專賣資金會計總括報告書第八號書式ノ葉煙草受拂報告書及第九號書式ノ葉煙草廻送受拂内譯書ヲ調製シ翌月十日マテニ差出スヘシ

(書式略ス)

●葉煙草保管證亡失及賣渡代金延納ニ關スル件(勅令第三百七十五號)

第一條 保管葉煙草ノ保管證ヲ亡失シタルトキハ其ノ所有者ハ其ノ葉煙草ノ價格ニ相當スル擔保ヲ提供シテ保管葉煙草ノ交付ヲ請フコトヲ得

第二條 葉煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ葉煙草專賣所ノ指定スル擔保ヲ提供シテ代金ノ延納ヲ請フコトヲ得

●國稅徵收法施行規則(勅令第二百二十一號)

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セントスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スベシ

第二條 各市町村ニ於テ徵收スベキ國稅ハ收稅官吏其ノ金額ヲ調査シ之ヲ市町村ニ通知スベシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スベシ

第三條 納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スベシ

第四條 市町村ニ於テ稅金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ納稅人ニ交付スベシ

第五條 市町村ノ領收シタル稅金ハ送付書ヲ添ヘ之ヲ金庫ニ送付スベシ

第六條 市町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ遲滯ナク漸次之ヲ金庫送付シ遲クモ納期後三日ヲ過グルコトナカルベシ

第七條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申出ベシ

前項ノ申出アリタルトキハ地方長官事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スベシ

第八條 市町村ハ納期内ニ稅金ノ徵收ヲ了ラザルモノアルトキハ納則後五日以内ニ其ノ滯納者ノ住所氏名及滯納ノ金額等ヲ收稅官吏ニ報告スベシ

第九條 納税人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ノ爲メ強制執行若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ納税人タル會社ガ解散ヲ爲シタル場合ニ於テハ未ダ納期ノ到ラザルモ左ニ掲グルモノハ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ之ヲ徵收スヘシ但シ納期ニ到リ納稅ニ妨ナシト認ムルモノハ此ノ限ニアラズ

- 一 納稅告知書ヲ發シタル諸稅
- 二 造石數査定濟ノ酒類混成酒並醬油ノ造石稅
- 三 當該年分ノ自家用酒製造稅

第十條 國稅ノ滯納ニ因リ其ノ滯納處分ヲ執行スルニ際シ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ國稅ヲ徵收セムトスル場合ニハ收稅官吏ハ滯納處分費滯納稅金ト共ニ之ヲ徵收スヘシ

前項ノ場合ニ於テ未ダ納稅告知書ヲ發セサルモノハ其ノ納金額ヲ滯納者ニ告知スヘシ  
第十一條 納税人他ノ公課ノ爲メ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ノ爲メ強制執行若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ納税人タル會社ガ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ第三十八條第三十九條第四十條ニ準シテ其ノ稅金ノ交付ヲ求ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ未ダ納稅告知書ヲ發セサルモノハ其ノ納金額ヲ納税人ニ告知スヘシ  
第十二條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手数料ニシテ一通毎ニ金五錢ヲ徵收ス

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産差押ヲ爲ストキハ滯納處分費及稅金ニ充ツル金額ヲ限度トシ徵收ニ便利ナリト認ムル財産ヲ差押フヘシ

第十四條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ滯納處分費及稅金額等ヲ示シ之ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

第十五條 國稅徵收法第三條ニ依リ國稅ノ徵收ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前條ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添付シテ其ノ事實ヲ證明スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ提出スヘキ公正證書ハ官吏又ハ公吏其ノ職權ヲ以テ調製シタルモノトス

第十六條 債權ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ債務者ニ通知シ滯納處分費及稅金ニ相當スル金額ヲ債務辨濟ノ時期ニ納付スルコトヲ求ムヘシ

第十七條 天然及法定ノ果實ヲ生スヘキ財産ヲ差押ヘタルトキ第三者ヨリ果實ノ引渡又ハ仕拂ヲ受クヘキ場合ニハ收稅官吏ハ其ノ旨ヲ第三者ニ通知スヘシ

第十八條 民事訴訟法ニ依レル假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若クハ強制管理人ニ通知スヘシ

第十九條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第二十條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分

一 持分シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分持均シキモノトシテ處分スヘシ

第二十一條 國稅徵收法第二十九條ニ依リ無限責任社員ニ就キ滯納處分ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ無限責任社員ノ一人ニ對シ又ハ同時若シクハ順次ニ總員ニ對シ之ヲ執行スヘシ

第二十二條 數人共同ノ所有物件又ハ事業ニ係ル税金ノ滯納ヲ爲シタル場合ニ於テハ各自ノ負擔ニ屬スル金額ニ就キ滯納處分ヲ爲スヘシ但シ數人連帶シテ納稅義務ヲ負擔スル場合ニハ前條ノ例ニ依ル

第二十三條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ滯納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ

第二十四條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ差押調書ニ通テ調製シ立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立會人ニ交付スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ  
前項差押調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ住所氏名
- 二 差押財産名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明コスル事項
- 三 差押ノ事由
- 四 調書ヲ作タル場所年月日

第二十五條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ所轄登記所ニ照會シテ差押

ノ登記ヲ受クヘシ

第二十六條 差押ヘタル財産ヲ公賣セムトスルトキハ三日以上差押財産所在地ノ市役所區役所町村役場若クハ戸長役場ノ揭示場ニ公告スヘシ

前項公告ノ外仍必要ト認ムルトキハ便宜他ノ場所若クハ新聞紙ニ公告スヘシ

- 第二十七條 財産公賣ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
- 一 滯納者ノ住所氏名
  - 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明コスル事項
  - 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時、
  - 四 開札ノ場所、日時、
  - 五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額
  - 六 代金納付ノ期限

第二十八條 國稅徵收法第二十五條ニ依リ隨意契約ヲ以テ差押財産ヲ賣却セムトスルトキハ見積價格ヲ示シテ豫メ其ノ旨ヲ滯納者ニ通知スヘシ

第二十九條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十條 差押財産ヲ公賣スル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ滯納處分費ニ充テ仍殘餘アレハ政府ノ所得トス

第三十一條 公賣ハ差押財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ第二十八條ノ賣却ニ關シテモ之ヲ適用ス

第三十二條 公賣ハ公告ノ翌日ヨリ少クトモ十日ノ期間ヲ過キ之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相題ノ保存費ヲ要スルモノ若クハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ恐レアルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 差押財産ヲ公賣セザルトスルトキハ收稅官吏ニ於テ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十四條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價額仍同ジキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 差押財産ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキトキ又ハ見積價格以上ノ入札人ナキトキハ更ニ公告レテ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第三十六條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セザルトキハ其ノ賣買ハ無効トシ收稅官吏公告シテ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第三十七條 前二條ニ依リ再度ノ公賣ヲ爲ス場合ニ於テ第三十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第三十八條 國稅ノ滯納者他ノ公課ノ爲メ滯納處分ヲ受ケ其ノ財産ヲ差押ヘシレタル場

合ニ於テ滯納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財産ナキカ又ハ差押フヘキ財産アルモ滯納處分費及稅金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收稅官吏ハ他ノ公課ニ係ル滯納處分ヲ執行スル官廳又ハ公共團體ニ滯納處分費及稅金ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ求ムヘシ

第三十九條 國稅ノ滯納者他ノ債務ノ爲メ強制執行ヲ受ケ其ノ財産ヲ差押ヘテレタル場合ニ於テ滯納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財産ナキカ又ハ差押フヘキ財産アルモ滯納處分費及稅金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收稅官吏ハ執行裁判所又ハ執達吏若クハ強制管理人ニ滯納處分費及稅金ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ求ムヘシ

第四十條 滯納者破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ滯納者タル會社ガ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ滯納處分ヲ執行スルトキハ收稅官吏ハ破産主任官又ハ清算人ニ滯納處分費及稅金ノ交付ヲ求ムヘシ

第四十一條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第四十二條 國稅徵收法第二十八條第二項ニ依リ債權者ニ交付スヘキ金額ハ計算書ヲ滯納者ニ交付シタル日ヨリ五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ

第四十三條 滯納處分ニ關スル書類ノ送達ハ使丁又ハ書留郵便ヲ以テスヘシ

第四十四條 國稅徵收法第三十條第二項ノ公告ハ名宛人ノ住所又ハ事務所所在地ノ市役所區役所町村役場若クハ戸長役場ノ揭示場ニ三日以上揭示シ仍必要アリト認ムルトキハ新聞紙ニ公告スヘシ

附則

第四十五條 市制町村制ヲ施行セサル地方稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類造石徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第四十六條 北海道水產稅ハ水產物營業人組合ニ於テ徵收シ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第四十七條 前二條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ宗納セサル者アルハ戸長若クハ水產物營業人組合ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ之ヲ稅務署收稅官吏ニ報告スヘシ

國稅徵收法施行細則 (大藏省令第十號)

第一條 國稅ヲ徵收セントスルハ稅務署長ニ於テ第一號書式ノ納稅告知書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ其ノ訂正ヲ要スルハ訂正ノ納稅告知書ヲ交付スヘシ

第二條 市町村市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長ニ徵收スヘキ國稅ハ稅務署長ニ於テ第二號書式ノ納額通知書ヲ調製シ之ヲ市町村市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長ニ送付スヘシ其ノ異動ヲ生シタルハ更ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三條 市町村市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長 前條ノ納額通知書ヲ受ケタルハ第三號書式ノ納稅告知書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第四條 市町村其ノ領收シタル稅金ヲ金庫ニ送付スルトキハ第四號書式ノ送付書ヲ添付スヘシ

第五條 市町村市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長 滯納ノ報告ヲ爲ストキハ第五號書式ノ滯納報告書ヲ調製シ稅務署ニ送付スヘシ送付後ニ其ノ報告書ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第六條 稅金納付ノ督促ヲ爲スルハ稅務署長ハ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ前項ノ場合ニ於テ滯納稅金及督促手数料ヲ金庫ニ納付セシムルトキハ納人ヲシテ第七號書式第八號書式ノ納付書ヲ添付セシムヘシ

第七條 稅金及滯納處分費ハ郵便爲替、日本銀行若クハ其ノ代理店ニ宛テタル送金手形又ハ日本銀行若クハ其ノ代理店ニ於テ證明シタル小切手ヲ以テ納付スルコトヲ得

第八條 納稅人ハ便宜ノ金庫ニ就キ稅務署長ノ指定シタル納付場所ニ稅金及滯納處分費ノ爲替納ヲ請求スルコトヲ得

第九條 國稅滯納者ノ財產差押ヲ命シタル收稅官吏ニハ左ノ證票ヲ交付ス

第一號	「何」稅務署
國稅滯納者	「官」氏 名
財產差押	
證票	

大藏省印



第十條 收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第九號書式ノ續權差押通知書ヲ發スヘシ

第十一條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ第十號書式ノ差押調書ヲ調製シ之ヲ立會人ニ交付スヘシ

第十二條 收稅官吏差押財産ヲ賣却セントスル場合ニ其ノ價格ノ見積リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ミ其ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 入札ノ方法ヲ以テ差押財産ヲ公賣スル場合ニハ買受望人ハ其ノ住所氏名買受財産ノ種類員額及入札價額ヲ記シタル入札書ヲ封緘シテ差出スヘシ

第十四條 入札書ハ公告ニ示シタル開札ノ場所、日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ開クモノトス但シ人札人又ハ其ノ代理人開札ノ場所ニ出席セザルトキハ其ノ立會ヲ要セスシテ開札スルコトヲ得

第十五條 競賣ノ方法ヲ以テ差押財産ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十六條 加入保證金又ハ契約保證金ハ公賣財産ノ見積價格百分ノ十以內ニ於テ適宜其ノ金額ヲ定ムルモノトス

第十七條 公賣財産ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ稅務署長ニ納付スヘシ

第十八條 滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十一號書式ノ送達書ヲ

添付スヘシ

第十九條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ第十二號書式ノ計算書ヲ調製シ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

(書式ハ略ス)

●市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件(勅令第九十五號)

左ノ諸稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘシ

- 一 所得稅
- 二 營業稅
- 三 自家用酒稅
- 四 賣藥營業稅

附則

本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

●賣藥規則

第一章

第一條 此規則ニ稱スル所ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量效能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其個所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ

第四條 藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノハ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タル者ハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及營業者ト取結タル約定書トヲ添へ其管轄廳へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第六條 賣藥營業者及請賣者共必免許ノ看板ヲ掲グヘシ

第七條 賣藥營業者及請賣ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳へ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 (十九年勅令第七十)  
二號ヲ以テ削除

第九條 (全上)

第十條 製藥第三條ニ掲クル所ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニ  
スル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳  
ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名  
前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ  
鑑札名前書換ヲ請フヘシ

第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタル時ハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ  
總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一箇年 金貳圓  
右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

但第一條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金並鑑札料ヲ納ム

ヘシ

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ヲ半高ヲ納ム  
ヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一  
日限リ鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全  
年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ  
第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者ハ其  
鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ請賣スルモノ及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又  
ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ  
(全上)

第二十二條 免許ヲ受クシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシ  
テ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付  
拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル

者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付キ百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

●大藏省令第三十一號

賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受讓受預置又ハ所持スルヲ得ス犯スモノハ金壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●大藏省訓令第十八號

賣藥營業免許鑑札料登記印紙貼付方ハ願書ニ印紙ヲ貼付セス鑑札下付ノ際印紙ヲ貼付シタル鑑札領收證ヲ出サシムヘシ

●賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一定價壹錢迄	印稅	壹厘
一同 貳錢迄	同	貳厘
一同 三錢迄	同	三厘
一同 五錢迄	同	五厘
一同 拾錢迄	同	壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘 淡黑色	貳厘 青色	三厘 黃色	五厘 茶褐色	壹錢 赭色	貳錢 綠色	三錢 濃青色	四錢 橙黃色	五錢 紫色	拾錢 深紅色
--------	-------	-------	--------	-------	-------	--------	--------	-------	--------

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

◎賣藥印紙交換規則

賣藥印紙交換規則左ノ通相定ム

◎賣藥印紙交換規則

第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性効ヲ失シタルモノヲ廢棄センカ爲メ既貼ノ印紙不用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼印紙額一ト口拾圓以上ハ其願出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト交換スヘシ

一 既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付 交換新印紙ハ八拾錢

一 貳拾圓以上壹圓ニ付 同 八拾五錢

第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス

第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ箇數及印紙各種枚數ノ仕譯ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ヲ所在府縣廳ニ差出シ檢査ヲ受ヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ檢査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟ノ證ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

◎藥品ノ封緘及檢査所ノ名稱ニ關スル取締

藥品ノ封緘ニ印紙ヲ貼付スル者ハ明治二十年六月内務省告示第二號衛生試驗所檢査印紙ト同色若クハ之ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ用キ封緘ヲ爲スコトヲ得ス

藥品其ノ他飲食物ノ檢査ヲ以テ營業トスル者ハ其ノ檢査所ノ名稱又ハ名稱ノ附記ニ衛生試驗所又ハ同音ノ文字ヲ使用スルコトヲ得ス

本令施行前其ノ檢査所ノ名稱又ハ名稱ノ附記ニ衛生試驗所又ハ同音ノ文字ヲ使用シタル者ハ本令施行ノ日ヨリ改稱スヘシ

本令ニ違背シタル者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス  
本令ハ明治三十年六月一日ヨリ施行ス

◎阿片法

第一條 阿片ヲ製造セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 阿片製造人ハ毎年十二月二十日迄ニ其ノ製造シタル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ阿片ハ政府ニ於テ試驗ヲ施シ其ノ莫見比涅含量所定ノ度ニ適スルモノニハ賠償金ヲ交付シ其ノ不適品ハ無償ニテ燻却ス

第三條 阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品ニ限り封緘ヲ施シ之ヲ賣下クルモノトス

政府ノ賣下ケタル阿片ノ外ハ賣買授受所所有又ハ所持スルコトヲ得ス

第四條 第二條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫見比涅含量及賠償金額並ニ第三條ニ依リ賣下クヘキ阿片ノ價格ハ内務大臣之ヲ告示ス

賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫見比混含量ヲ増加シ又ハ賠償金額ヲ低減セムトスルトキハ一箇年以前ニ告示スヘシ

第五條 阿片ハ地方長官ヲシテ其ノ管内藥劑師藥種商中相當ノ人員ヲ限リ卸賣人ヲ指定シテ賣下ケシム

第六條 醫師及藥品營業者ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ數量並ニ住所氏名年月日ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ卸賣人ヨリ請求スヘシ

醫師及製藥者ハ阿片ヲ藥劑師藥種商ヨリ購求シ又ハ藥劑師藥種商互ニ之ヲ賣買スルコトヲ得此ノ場合ニハ前項ノ證書ヲ以テスヘシ

第七條 阿片ハ前條ノ外醫師ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス

藥劑師ハ政府又ハ他ノ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ阿片ヲ零賣スルコトヲ得此ノ場合ニハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ

藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハス政府又ハ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第八條 處方箋並ニ第六條ノ證書ハ其ノ日付ヨリ滿十箇年間之ヲ保存スヘシ

第九條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ阿片ヲ製造シタル者又ハ第三條第二項ニ違背シタル者ハ百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ阿片ヲ製造シタル阿片又ハ政府ノ賣下ケタルニ非サル阿片ハ之ヲ沒收ス

第十一條 第二條第一項ニ違背シタル者ハ三十圓以上三百以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第七條第八條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 阿片製造人又ハ阿片卸賣人此ノ法律又ハ其ノ施行ニ關スル規則ニ違背シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可又ハ指定ヲ取消スコトヲ得

附 則

第十四條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十五條 此ノ法律施行ノ日現ニ阿片製造人タル許可ヲ有スル者ハ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條 此ノ法律施行以前地方廳ニ預リ置キタル阿片ハ之ヲ燒却ス

第十七條 明治十一年布告第二十一號藥用阿片賣買並ニ製造規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●阿片法施行細則

第一條 阿片製造人阿片ヲ納付セントスルキトハ納付書ニ阿片ノ量日記ヲシ現品ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ內務省ニ申出ツヘシ但現品ニハ量目及本人ノ住所氏名ヲ記シタル木札ヲ付スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ納付書ヲ受ケタルトキハ現品ハ最寄衛生試驗所ニ送致シ納付書ハ其ノ旨ヲ附記シテ內務省ニ進達スヘシ

衛生試驗所ニ於テ前項ニ依リ阿片ノ送致ヲ受ケタルトキハ試驗ヲ施シ其ノ成績ヲ內務

省ニ報告スヘシ

一四二

但五匁未満ノ納付品ハ試験ヲ施スニ及ハス

第二條 政府ニ於テ賣下クル阿片ノ容器ハ一匁八十匁入五十匁入ノ三種トシ每器衛生試験所ノ印紙ヲ以テ封緘スルモノトス

第三條 阿片卸賣人ハ政府ノ會計年度ニ依リ(以下年度トアルモノ皆之ニ倣フ)半年度毎ニ拂下ケテ受クヘキ阿片ノ數量ヲ豫算シ容器ノ種類員數ヲ記シ之ヲ地方廳ニ請求スヘシ但缺乏ノ節ハ臨時請求スルコトヲ得

第四條 阿片卸賣人ハ其ノ店頭ニ阿片卸賣所ト書シタル看板ヲ掲クヘシ

第五條 阿片製造人及阿片卸賣人族籍住所氏名ヲ變換スルカ及ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ七日以内ニ地方廳ニ届出ツヘシ

阿片製造人及阿片卸賣人廢業シタルトキ又ハ死亡シ相續者其ノ業ヲ繼カサルトキハ既製ノ阿片及販賣殘餘ノ阿片ハ前項ノ期日内ニ納付シ又ハ買戻ヲ請求スヘシ但販賣殘餘ノ阿片ハ本條ノ期日内ニ同業者ニ讓渡スコトヲ得

第六條 第五條ノ届出納付及買戻ノ請求ハ死亡ノ場合ニ於テ戸主之ヲ爲スヘシ戸主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續相續者、未定又ハ不在ナルトキハ其ノ財産ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

第七條 地方廳ニ於テハ阿片卸賣人ヲ指定シ又ハ指定ヲ取消シタルトキ及卸賣人住所氏名ヲ變換シ又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ管内ニ告示シ同時ニ内務

省ニ報告スヘシ

第八條 藥劑師藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハズ阿片ノ受拂高並仕入元賣渡人ノ住所氏名年月日ヲ簿記シ十年間之ヲ保存スヘシ但藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ依リ患者ニ與アル者ハ本條ノ簿記ヲ要セス

第九條 阿片卸賣人ハ毎年度ノ阿片受拂表正副二通ヲ製シ年度後一箇月以内ニ地方廳ニ差出スヘシ

第十條 第四條第九條ニ違反シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條 第五條第八條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十二條 此ノ規則ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

一四三

●傳染病豫防法

法律第三十六號

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹室、扶私、猩紅熱、實布埤利亞（格魯布）及「ペスト」ヲ謂フ  
前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ハ届出ヘシ

前項ノ届出チ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校、病院製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

當該吏員ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ其ノ近鄰ノ家又ハ患家ト交通ヲ爲シタル家ニモ清潔方法及消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ

健康者ノ隔離チ必要ト認ムルトキハ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染患者アリタル家及其ノ近鄰ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條 傳病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轉警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得



得ス但シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長又ハ管理人ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルヲ得但シ當該吏員クルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ス

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム  
第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ船舶汽車ノ乗客乗組人ニシテ病毒感

染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗込マシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ其ノ地市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

- 一 傳染病患者ノ有無ヲ檢診セシムルコト
- 二 市街村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮斷スルコト
- 三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト
- 四 古着、襪襪、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト
- 五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト
- 六 船舶ニ醫師ノ雇入ヲ命シ又ハ汽車船舶若ハ多數人民ノ集合スル場所ニ豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト
- 七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、厠圍ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八 一定ノ場所ノ漁獵、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スル  
コト

第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ  
陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

- 一 豫防委員ニ關スル諸費
- 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法消毒方法及種痘ニ關スル諸費
- 三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費
- 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費
- 五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料
- 六 第八條ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費
- 七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

- 一 檢疫委員ニ關スル諸費
- 二 船舶又ハ瀟車ノ檢疫ニ關スル諸費
- 三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲自活シ能サル者ノ生活費

其ノ他府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分一ヲ補助スルモトトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ期限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町

村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徴スルコトヲ得私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徴ニ關シ不服アル私人ハ訴訟法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條第五條第一項第九條第十條第十一條第十二條ニ違背シタル者第五條第二項ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ施行セサル者交通遮斷ヲ犯シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依リ第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●傳染病豫防法施行規則

(內務省令第十一號)

第一條 警視總監府縣知事ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病豫防法第一條ニ掲クル八病ヘ外同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シテ速ニ內務大臣ニ申報スヘシ但前段ノ場合ニ於テハ鄰接若クハ船舶汽車交通ノ地ノ警視廳府縣廳最寄兵營及最寄港灣ニ碇泊ノ軍艦等ニ通報スヘシ

第二條 市町村長區長〔沖繩縣ノ區長〕戶長〔戶長ニ準スヘキ者ヲ〕又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ五ニ通報シ且警察官吏ニ通報スヘシ但町村長又ハ戶長ニ於テ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ郡役所島廳ニ報告シ郡長市長島司又ハ區長ハ府縣廳ニ報告スヘシ

市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第四條ノ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ醫師ヲシテ診斷セシメ傳染病ナルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタルトキハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ但警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳〔東京府ハ〕ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトヲ得

第四條 市町村長戶長又ハ豫防委員第二條ニ依リ傳染病ノ届出又ハ通報ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタルトキハ直ニ其ノ家ニ臨ミ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指

示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第五條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ豫防上必要ト認ムルトキ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシメ健康者ヲ隔離所ニ入ラシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條又ハ第十九條第二ニ依リ左ノ日時間交通ヲ遮斷スルコトヲ得但第十九條第二ニ依リ交通ヲ遮斷スルハ特ニ府縣知事〔東京府ハ〕府縣廳〔府縣廳〕ノ命アル場合ニ限ル

視總監〔視總監〕ノ命アル場合ニ限ル

虎列刺 赤痢

患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ滿五日間

發疹痘扶私 「ペスト」

患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ滿七日間

第七條 左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏市町村長區長戶長檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ但第一ノ場合ニ於テハ認可ヲ爲シタル吏員ヨリ患者又ハ死ケテ交通遮斷ニ關スル事務ニ從事スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ交通遮斷ニ關スル事務ニ從事スヘシ

體ヲ移スヘキ地ノ吏員ニ通報スヘシ

- 一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サントスルトキ
- 二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用授與移轉遺棄又ハ洗滌セントスルトキ
- 三 傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間内ニ埋葬セントスルトキ

トスルトキ

第八條 傳染病豫防法第九條第十條及第十一條第一項ノ場合ニ於テハ市町村長區長戸長

又ハ豫防委員ハ充分消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第九條 傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルヘク日出後日没前ニ於テスヘシ其ノ戸主首長管理人等ニ示スヘキ證票ハ左ノ如シ

凡三寸

木札  
表凡  
又ハ  
厚紙  
面寸

傳染病豫防吏員之證

裏面

官廳公

署印

第十條 府縣知事〔東京府ハ〕警視總監〔〕市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得

第十一條 府縣知事〔東京府ハ〕警視總監〔〕傳染病豫防法第十九條第七ニ依リ清潔方法消毒方法等ノ施行ヲ命シタルトキハ四條ノ規程ヲ準用ス

第十二條 市町村立ノ傳染病院隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費藥價ヲ徵收スルコトヲ得其ノ金額ハ市ニ在テハ府縣知事町村ニ在テハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第二十六條ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市町村ハ必要ナル人夫器具藥品等ヲ供給シ又ハ其ノ費用ヲ支出スヘシ

第十四條 府縣知事ハ衛生組合ヲ消毒器具藥具等ヲ設備セシムルコトヲ得

第十五條 傳染病豫防法第二條第十八條〔第三項但書ノ場合ヲ除ク〕及第十九條ノ地方長官ノ職務其ノ傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ニ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

東京市京都市大阪市ニ於テ傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ市長ニ屬スル職務ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第十六條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第十七條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ必要ナル細目ハ警視總監府縣知事之

ヲ定ム

高地ニ關シ此ノ規則ノ規程ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ警視總監府縣知事ハ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

●傳染病豫防法第六條ニ依リ清潔方法消毒方法ノ件

(內務省令第十三號)

第一章 清潔方法

第一條 清潔方法ノ要項左ノ如シ

- 一 傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其ノ他病毒汚染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃除ヲ行ヒ其ノ塵芥ハ之ヲ焼却スヘシ
- 二 家屋掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他ノ不潔物ハ之ヲ取除ケ燒却スヘシ
- 三 傳染病患者アリタル家ノ井戸流、臺所流、便所又ハ芥溜ノ掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行フヘシ但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸浚ヲ爲スヘシ
- 四 傳染病豫防法第五條第二項ノ場合ニ於テハ前各號ヲ準用スヘシ

第二條 傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病毒蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシトセス必要ノ場合ニハ消毒藥(生石灰若クハ石灰)ヲ投シタル後浚漂スヘシ

第三條 傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠ノ浚漂ヲ爲ス場合ニ於テハ濫リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

第四條 溝渠ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラサル様一定ノ場所ニ棄ツヘシ汚泥ヲ路傍ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス

第二章 消毒方法

第五條 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 燒却
- 二 蒸氣消毒
- 三 煮沸消毒
- 四 藥物消毒

第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 傳染病患者若クハ死體ニ用キタル被服、臥具、布片、便器、其ノ他ノ器具等ニシテ甚シク病毒ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノ
- 二 傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他ノ排泄物等

第七條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 衣服、臥具、布片等總テ絹布、綿布、麻布、毛織物類、
- 二 硝子器、陶器、磁器、其ノ他鑲製若クハ木製品類等ニシテ汽熱ニ堪フルモノ

第八條 蒸氣消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス

- 一 革類、革製品、漆器、其ノ他ノ塗物類、護謨製品、護謨附品、糊附品、膠附品、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸氣消毒ヲ避クヘシ
- 二 被服類ニ蒸氣消毒ヲ施スニハ襟ノ袖中又ハ衣裳中ヲ檢索シ若シ彈丸火藥等爆發又ハ發火シ易キ物品アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ恐アル物等ハ蒸氣消毒ヲ避クヘシ
- 三 蒸氣消毒ハ流通蒸氣ヲ用キ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

第九條 煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸氣消毒ニ適スルモノニ同シ

煮沸消毒ハ沸騰後一時間以上煮沸スヘシ

第十條 藥物消毒ニ供スル藥劑並其ノ用法ハ左ノ如シ

- 一 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分、
- 二 石炭酸水(二十倍) 石炭酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ定量ノ水ヲ注キ後鹽酸一分ヲ加フヘシ温湯ヲ用キレハ其ノ溶解殊ニ速カナリトス但使用ノ際ハ毎回振盪スルヲ要ス
- 三 石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但使用ノ際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ
  - 一 吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ
  - 二 器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撒布スヘシ
  - 三 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ
  - 四 衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用キ十二時間以上浸漬シ其ノ後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ
- 二 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸十分、水九百八十九分、
- 三 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸十分、水九百八十九分、
- 四 昇汞水ハ猛毒ニシテ無臭無臭ナルカ爲メ危險ヲ速キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ又其ノ危險ヲ防カン爲メ凡十分一ノ「フロキシ」ヲ加ヘテ着色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス但金屬製ノ器ニ貯藏スヘカラス
- 五 昇汞水ハ陶器、硝子器、又ハ木製器具ノ消毒ニ用ユヘシ飲食器、玩具、疊、敷物

ノ消毒飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒及金属製品、糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘ  
カラス

三

生石灰(少量ノ水ヲ灌ゲバ熱ヲ發シテ崩壊スルモノ)  
生石灰末(生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ)

生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其ノ他ノ排瀉物、溝渠、芥溜、床下、等ノ  
消毒ニ用フヘシ吐瀉物其ノ他ノ排瀉物ヲ消毒スルニハ少クモ其ノ容量五十分一ヲ  
投シ能ク攪拌スヘシ溝渠芥溜ニ對スル量ハ之ニ準シ床下ニ在テハ其ノ全面ニ撒布  
スヘシ

石灰乳(十倍) 生石灰一分  
水 九分

石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スヘシ其ノ用  
量ハ生石灰末ノ五倍トス但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌ス  
ルヲ要ス

普通石灰ヲ生石灰末石灰乳ニ代用スル場合ニハ倍量ヲ用フヘシ

木灰ハ生石灰石灰等ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ虎列刺病患者ノ吐瀉物赤痢病  
患者腸窒扶私病患者ノ排瀉物ノ消毒ニ代用スルコトヲ得其ノ用量ハ吐瀉物排瀉物  
ノ五分一トス灰汁トシテ使用スルニハ木灰一分ニ水四分ヲ加ヘ之ヲ煮沸シテ製ス  
ヘク其ノ用量ハ吐瀉物排瀉物ノ同容量トス但石灰灰、礬灰ハ木灰ト同一ノ効ナシ  
トス

四

格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分  
水 九十五分

格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

第十一條

消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ

第一 患者

傳染病患者治癒シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ更ノシムヘシ場合ニ依リテハ温  
濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代ユルモ妨ケナシ

第二 死體

傳染病ノ死體ヲ棺ニ歛ムルニハ其ノ被服ニ昇汞水若クハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又  
ハ昇汞水若クハ石炭酸水ニ浸漬シタル布ヲ以テ包ミ又ハ石灰若クハ木炭ヲ以テ填ツ  
ヘシ

第三 看病人、病家ノ家人、其ノ他病毒ニ觸接シタル者

看病人、病家ノ家人、其ノ他消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排汚物ノ運搬等ノ爲  
メ病毒ニ觸接シタル者ハ時々若クハ其ノ都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ

第四 患者、死體等ノ運搬器

傳染病ノ患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠釣臺ノ類ハ使用後毎回昇汞水若クハ石炭酸  
水ヲ以テ擦拭スヘシ

第五 便所、芥溜、溝渠等

傳染病患者ノ吐瀉物其ノ地排瀉物ノ入りタル便所ノ糞池、肥料溜等ニハ生石灰末、



石灰乳、若クハ格魯兒石灰水ヲ灌ギ能ク攪拌スヘシ但便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒シタル後直ニ使用シ糞便ハ一週間ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得

病毒ニ汚染シタル土地ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌ギ消毒スヘシ

病毒ノ混入シタル芥溜ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌ギ其ノ塵芥ハ燒却スヘシ

病毒ノ混入シタル溝渠ニハ生石灰末、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌グヘシ

第六 衣服器具敷物等

傳染病患者ノ着用セル衣類臥具並其ノ病室ニ在ル諸器具又ハ看病人及患者ニ接シタル家人ノ衣類其ノ他病毒汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スヘシ

第八條第一ニ掲ケタル物品ノ類ハ曹達石鹼(毛皮ニハ避クヘシ)ヲ以テ洗ヒ又ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨シ若クハ之ヲ撒布スヘシ

第五條ニ掲ケル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハサルモノハ日光ニ曝シ若クハ大氣中ニテ乾燥セシムヘシ

第七 患者ノ居室

石炭酸水若クハ昇汞水ヲ以テ室内各部ヲ拭淨スヘシ消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要ス

第八 瀉車

傳染病患者若クハ死體アリタル瀉車内ノ消毒ハ第七ニ準スヘシ傳染病患者ノ吐瀉物

其ノ他排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ混シ適宜處置スヘシ  
車室ニ附屬スル便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

染傳病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七第八ニ準スヘシ其ノ他ノ場所ニ對シテハ消毒藥ノ撒布擦拭等適宜處置スヘシ

船底水ニハ其容量ニ百分一ノ生石灰末ヲ加ヘ二十四時間ヲ經タル後汲出サシムヘシ

●瀉車檢疫規則

(内務省令第十九號)

第一條

府縣知事

東京府ハ警視總監

汽車檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫スヘキ傳染病及其ノ目的地方ヲ指定シ檢疫施行ノ停車場及開始ノ期日ヲ定メテ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示シ併セテ關係府縣廳

東京府ハニ通知スヘシ其ノ廢止ノトキ亦之ニ準ス但官設鐵道ノ停車場ニ於テ檢疫ヲ施行スルトキハ遞信省ニモ申報スヘシ

關係府縣廳東京府ハニ於テ本條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第二條

汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ患者ハ之ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ收容治療シ死者ハ引受人ニ引渡シ若シ引受人ナキトキ

ハ明治十五年九月布告第四十九號旅行死亡人取扱規則ニ準シ市町村長、區長、沖繩縣又ハ戶長

戶長ニ準スヘシ其ノ處置ヲ爲サシムヘシ但該規則第二條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スヘシ

第三條 汽車檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容  
 中特ニ要シタル費用ニシテ該患者ヨリ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其ノ本  
 籍詳カナラサル場合又ハ身元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限リ發見地府縣知事ニ請  
 求スヘシ但本條ノ費用ニシテ患者ヨリ徵收スヘカラサルモノハ直ニ發見地府縣知事ニ  
 請求スルコトヲ得

發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ  
 第四條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ患者死者ト同車室ニ在ルカ否サル  
 モ病毒汚染ノ虞アル乗客及手荷物ハ一時之ヲ留メテ消毒方法ヲ施行スヘシ

第五條 傳染病患者又ハ死者アリタル車室ハ之ヲ取離シテ消毒方法ヲ施行スヘシ此ノ場  
 合ニ於テハ鐵道掛員ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得  
 傳染病患者又ハ死者ナキ車室ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ清潔方法消毒  
 方法ヲ施行セシムルコトヲ得

第六條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタル其ノ停車場ニ於ケル設備ノ都合等ニ依  
 リ前數條ニ規定シタル事項ヲ施行スルコト能ハサルトキハ假ニ病毒ノ散逸ヲ防グヘキ  
 相當ノ手當ヲ爲シ該車室ノ出入口ヲ閉鎖シテ乗客ノ出入ヲ止メ他ノ停車場ニ至リ其ノ  
 處置ヲ爲スヘシ

第七條 檢疫掛員ニ於テ職務執行上必要アルトキハ無償ニテ其ノ列車ニ乗込ミ又ハ必要  
 ナル通信ヲ驛長若クハ掛員ニ求ムルコトヲ得無償乗車ノ場合ニ於テハ官職氏名ヲ記シ

タル證票ヲ驛長若クハ掛員ニ示スヘシ  
 附 則

第八條 汽車檢疫施行中府縣知事東京府ハ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル汽車ニ  
 傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス

第九條 明治二十三年內務省訓第四五二號汽車檢疫心得ハ廢止ス

●船舶檢疫規則 (內務省令第二十號)

第一條 府縣知事東京府ハ船舶檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫スヘキ傳染病及其ノ目  
 的の地方ヲ指定シ檢疫施行ノ場所及開始ノ期日ヲ定メテ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示  
 シ併セテ關係府縣廳東京府ハニ通知スヘシ其ノ廢止ノトキ亦之ニ準ス

關係府縣廳東京府ハニ於テ本條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第二條 府縣知事東京府ハ指定シタル地方ヲ發シ又ハ其ノ地方ヲ經テ檢疫ヲ施行スル  
 港ニ來ル船舶ハ檢疫掛員ノ尋問又ハ檢査ヲ受ケ其ノ許可ヲ得タル後ニアラサレハ他港  
 ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ乗客乗組人ヲ上陸セシメ又ハ積荷手荷物ノ陸揚ヲ爲ス  
 ヘカラス

航行中又ハニ傳染病患者若クハ死者ナキ船舶ニハ直ニ前項ノ許可ヲ與フルコトヲ得  
 第三條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶及停留中ノ船舶ハ黃旗ヲ前橋  
 ニ掲揚スヘシ但檢疫掛員ノ許可ヲ得ル迄ハ之ヲ下スヘカラス

第四條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶ニハ消毒方法ヲ施行シ港内適當ノ場所ニ停留セシムルコトヲ得

前項停留ノ日時ハ傳染病豫防法施行規則第六條交通遮斷ノ日時ニ準ス停留中新クニ患者ヲ發シタルトキハ其ノ處置ヲ了シタル時ヨリ起算シ更ニ同期間停留ヲ繼續スルコトヲ得

檢疫掛員ニ於テ消毒方法ヲ施行スルトキハ乗組人ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

第五條 船舶中傳染病患者又ハ死者アリタル場合ト雖モ乗客乗組人中患者死者ト飲食起臥ヲ共ニシタル等ニ依リ檢疫掛員ニ於テ病毒感染ノ虞アリト認ムル者ノ外ハ消毒方法ヲ施行シタル後直ニ上陸ヲ許可スルコトヲ得

第六條 船舶中傳染病患者又ハ死者アリタル場合ト雖モ積荷手荷物ハ消毒方法ヲ施行シタル後直ニ陸揚ヲ許可スルコトヲ得但檢疫掛員ニ於テ病毒汚染ノ虞ナシト認ムル積荷手荷物ハ消毒セサルモ妨ケナシ

第七條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ハ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離舎其ノ他適當ノ場所ニ收容治療シ死者ハ引受人ニ引渡シ若シ引受人ナキトキハ明治十五年九月布告第四十九號行旅死亡人取扱規則ニ準シ市町村長區長ノ區長又ハ戸長ニ準スルテ其ノ處置ヲ爲サシムヘシ但該規則第二條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スヘシ

第八條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離舎ニ收容中特ニ要シタル費用ニシテ該患者ヨリ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其ノ本籍詳カナラサル場合又ハ身元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限り發見地府縣知事ニ請求スルコトヲ得

發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第九條 消毒方法ヲ施行スヘキ船舶ハ其ノ港ニ於ケル消毒設備ノ都合等ニ依リ他ノ港ニ回航セシムルコトヲ得

第十條 檢疫掛員ハ職務執行上必要アルトキハ無償ニテ其ノ船舶ニ乗込ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ船長若クハ事務員ニ其ノ旨ヲ通告スヘシ

第十一條 傳染病患者又ハ死者ナキ船舶ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルコトヲ得

附則

第十二條 船舶檢疫施行中府縣知事東京府ハ警視總監ノ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル船舶又ハ其ノ港ニ碇泊中ノ船舶ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス

第十三條 府縣知事東京府ハ警視總監ハ大和船漁船等ノ檢疫ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第十四條 明治十四年内務省達乙第四十九號傳染病豫防規則第十三條船舶檢查手續ハ廢止ス

●牛疫檢疫規則

(農商務省令第十八號)

- 第一條 牛疫流行地ヨリ牛羊ヲ搭載シ來ル船舶ニシテ該獸類ヲ陸揚セントスルトキハ檢疫官ノ指揮ニ從フヘシ
- 皮骨類及其他ノ物品ニシテ牛疫傳播ノ虞アルモノヲ陸揚セントスルトキ亦同シ
- 第二條 前條ノ獸類ハ檢疫官ニ於テ其所有者所有者ナキトキハ管理人又ハ船長ナシテ檢疫所ニ送致セシメ必要アルトキハ之ヲ繫留スヘシ
- 第三條 檢疫所ニ於テ牛疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ヲ發見シタルトキハ檢疫官ハ獸ニ豫防法ノ規定ニ依リ之ヲ處分スヘシ
- 第一條ニ依リ陸揚シタル物品ニシテ病毒ニ汚染シ若クハ其疑アルモノハ消毒ヲ行フ疫アラザレハ他ニ移スヘカラス
- 第四條 檢委員ハ獸類ニ於テ牛疫發生ノ虞ナシト認メタルハ其所有者所有者ナキトキハ管理人又ハ船長ニ證明書ヲ交付スベシ
- 第五條 檢疫所所在地ノ地方長官ハ所属官吏及獸醫ヲ以テ檢疫官トシ檢疫ヲ行フヘシ
- 第六條 檢疫施行地及檢疫施行ノ始終ハ其都度告示ス

●取引所法

第一章 取引所ノ設立

- 第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若クハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得
- 第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限り設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更テニ繼續ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ
- 第二章 取引所ノ組織
- 第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及ヒ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得
- 第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及ヒ會員ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得
- 株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及ヒ之ヲ處分スルコトヲ得
- 取引所ノ責任ハ財産ニ限ルモノトス
- 第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及ヒ指圖

式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得

取引所ハ其倉荷證書ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受ルヲ得ス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三章 取引所ノ會員株主及件買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ハ定款ノ規程ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ニシテ年齢二十五歳以上ノ者ハ政府ノ免許ヲ受ケ其ノ取引所ノ件買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ノ件買人タル免許ヲ受クルコトヲ得

第十一條 帝國臣民ニ非ヤレハ取引所ノ會員株主又ハ件買人トナルコトヲ得ス

婦女、未成年者、公權剝奪及ヒ停止中ノ者復權セサル破産者及ヒ家資分散者並ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス

重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪、商業及ヒ農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ滿期若クハ赦免後二箇年ヲ經サル者及ヒ前項ニ該當スル者ハ取引所ノ件買人タルコトヲ得ス

第十二條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトキ免許料ヲ納ムヘシ  
免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 取引所ノ會員及ヒ仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲メ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ且ツ政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシ  
取引所ノ役員左ノ如シ

理事長 一人 理事 二人以上 監査役 若干人

理事長及ヒ理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所役員ト爲スコトヲ得ス

第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス但シ監査役ハ此限ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引延取引及ヒ定期取引ノ三種トス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及ヒ身元保

證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任

スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及ヒ之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買双方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 取引所ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若クハ公衆ヲ安寧ニ妨害アルト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取引所ノ解散 二 取引所ノ停止 三 取引所一部ノ停止若クハ禁止 四

役員ノ解職 五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若クハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及ヒ會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及ヒ仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若クハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七章 罰則

第三十一條 第十二條第一項及ヒ第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十三條 取引所稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及ヒ積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其營業ヲ繼續スコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ此ノ限ニ在ラス

●取引所稅法

第一條 取引所ハ定期買賣ニ付左ノ割合ニ從ヒ税金ヲ納ヘシ

- 一 商品、有價證券 買賣各定約代金高萬分ノ六箇
- 一 國債及地方債證券 同萬分ノ三箇

第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及ヒ買戻人ノ買高ニ係ル税金ハ之ヲ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其ノ税金ハ之ヲ免除セス

第四條 取引所ハ每一箇月賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ管廳ニ届出ヘシ

取引所稅額ハ前項ノ届出ニヨリ地方長官之ヲ定ム

第五條 取引所稅金ハ每一箇月分ヲ翌月二十日マテニ納ムヘシ

第六條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會所仲買人ニ就キ其ノ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトアルヘシ

第七條 第四條ノ届出ヲ詐リ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタルトキハ取引所理事長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其ノ脫稅ニ係ル金額ニ徵收スヘシ

第八條 第四條ノ届出ヲ怠リタル并ハ理事長ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、敍罪俱發ノ例ヲ用キス

附則

第十條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス

### ●質屋取締法

一七六

- 第一條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ
- 第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
- 第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第五條 質屋ハ質契約及ヒ質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ  
質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ  
帳簿、質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ  
一 利子割合  
一 流質期限  
一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方  
一 質物出入時間
- 第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス  
前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限り命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 質屋ハ左ニ掲クル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

貸金貳拾五錢以下ハ一箇月壹錢、壹圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、拾圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限り無効トス

第十條 質置主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨償シテ其質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條 質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘ヲス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贖物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限り警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條 贖物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取り若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得



警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スル

コトヲ得若シ被害者知レザルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ

停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及フ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者

ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約

及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者

第二十三條 第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條

、第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第二十五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ

第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係ル質契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス

第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●質屋取締法細則

第一條 質屋取締法及此細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク以下之ニ倣フ)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルヲ得但シ營業ヲ禁止若クハ一停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此限ニ在ラス

第二條 支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉、營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動、管理人ノ變更及後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ、營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ、行政廳ニ届出ヘシ

但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ拾日以内ニ於テスヘシ

第五條 帳簿ノ種類及其記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ツヘシ

第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名

捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額、質物ノ種類、員數、番號、年月日ヲ記載スヘシ其製方及標式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルヲ得

第八條 第二條第三條第一項第二項第六條及第七條ニ違背シタル者ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 此細則ニ規定シタルモノノ外、警視總監、北海道廳長官、及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルヲ得

## ●古物商取締法

一八二

第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條 古物商ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ  
第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳ニ届出ヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケントスルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケルニ非スシテ賣買若ハ交換シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限リ其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届出ヘシ但シ官衙公署ノ公賣品及賣業者ヨリ買受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

一 古物ノ市場、行商、露店及糶賣

二 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換

第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セントスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條 住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ住所

、氏名ノ詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス  
第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ買受ケ又ハ讓受クルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十一條 古物商物品ヲ買賣シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ  
其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

一八三

第十四條 古物商法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及ブ

第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解シコトヲ得

第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ依ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官没スルコトヲ得

第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十三條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品帳簿ヲ毀損亡失シタル者
- 二 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
- 三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者
- 四 第十五條ニ違反シタル者

第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違反シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 此法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條 營業上ニ附テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任ス

第二十三條 此法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十四條 此法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ

第二十五條 明治十六年第五號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●古物取締法細則

第一條 古物商取締法及此細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監、北海道ニ於テハ北海道廳長官其他ノ府縣ニ於テハ知事之ニ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク)以下之ヲ做フ知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルヲ得但シ營業ノ禁止若クハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此限ニ在ラス

第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其營業ニ屬スル古物ヲ賣買、交換スルトキハ古物商取締法及此細則ヲ遵守スヘシ

- 吳服商 金物商 袋物商 小間物商 鼈甲商 時計商 飾商 書籍商
- 其他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノ、外ハ